授業計画（シラバス）

科目名	人間の尊厳と自立				指導担当者名	橋本　好博
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・老い、病、障害などにより生活の支障を生じている人々への生活支援を行う際の尊厳の保持と自立の基本を講義する。 ・福祉の理念を理解し、尊厳の保持や権利擁護の視点及び専門職としての基盤となる倫理的な知識を養う。 ・事例を通して介護における尊厳の保持と自立支援の方法について演習を通してその方法を明らかにする。 ・「人間」の多角的理解（自己理解、他者理解）についてを説明できる。 ・人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支えることができる。 ・介護福祉における倫理的課題への対応能力について基礎となる能力を養う。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1　第2版　人間の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	人間の尊厳と利用者主体	1．人間を理解するということ　2．人間の尊厳という理念 3．人間の尊厳と利用者主体
	2	人権思想の潮流とその具現化	1．人権思想の潮流　2．人権思想の具現化 3．基本的人権・自由権と生存権
	3	人権や尊厳に関する日本の諸規定	1．幸福追求権（日本国憲法第13条と公共の福祉　2．生存権（日本国憲法第25条） 3．社会福祉法・介護保険法・障害者総合支援法
	4	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅰ	1．エリザベス救貧法・新救貧法　2．貧困と社会福祉援助 3．戦争と優勢思想
	5	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅱ	1．世界人権宣言 2．貧困と様々な社会福祉援助
	6	社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷Ⅲ	1．ノーマライゼーション・ソーシャルインクルージョン 2．QOL　3．生命倫理
	7	人権尊重と権利擁護Ⅰ	1．1人の人間としての利用者の権利 2．利用者の権利侵害が起こる状況
	8	人権尊重と権利擁護Ⅱ	1．権利侵害の背景　2．権利擁護の視点 3．エンパワメント
	9	自立の概念の多様性	1．いろいろな視点からみた自立　2．画一的ではない自立 3．ライフサイクルからみた自立
	10	自立とは	1．自立をするのはだれか　2．自己選択・自己決定 3．自律・精神的自立
	11	介護を必要とする人々の自立と自立支援	1．介護を必要とする人の自立　2．工夫的自立への支援 3．自立への意欲と動機づけ
	12	介護における自立支援について学ぶ	1．自立支援の考え方（残存機能）　2．自立と依存と選択 3．自立支援とICF
	13	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立、 自立支援の関係性	1．人格　2．尊厳を損なう介護とは 3．尊厳を守るための介護とは
	14	介護における自立支援の実践	1．尊厳を守る介護の中心にある自立支援 2．利用者の主体性を大切にした声かけ　3．利用者の自立支援
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	対人関係学				指導担当者名	緑川　浩子
実務経験	社会福祉学士				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	人間関係の形成に必要なコミュニケーションの基礎的知識を理解し、よりよい援助サービスが提供できる能力を習得する。 1.コミュニケーションの基礎的構造（自己理解、他者理解、自己覚知など）を理解する。 2.コミュニケーションの基本的態度である「受容」「共感」「傾聴」を身に付ける。 3.実践場面で役立つコミュニケーションの基礎的知識・技術を習得する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1　第2版　人間の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	利用者と援助者との関係	利用者と援助者との間に形成される専門的な対人関係を考察する
	2	人間関係の基礎となるもの	人間らしさと「自己理解」「他者理解」「自己覚知」「自己開示」を理解する
	3	対人関係とコミュニケーション①	発達心理学からみた人間関係を理解する ・人間の発達段階～エリクソンの発達理論
	4	対人関係とコミュニケーション②	社会心理学からみた人間関係を理解する ・対人認知～個々人の認知の世界
	5	対人関係とコミュニケーション③	集団力学と人間関係を理解する ・集団の意味と集団が持つ力
	6	対人関係とコミュニケーション④	人間関係とストレスについて理解する ・ストレスの意味とストレスの種類・症状
	7	コミュニケーションの基礎①	コミュニケーションの概念と基本構造を理解する ・「一方的コミュニケーション」と「双方的コミュニケーション」
	8	コミュニケーションの基礎②	コミュニケーションの手段を理解する ・「言語的コミュニケーション」と「非言語的コミュニケーション」　・コミュニケーションの対人距離
	9	コミュニケーションの基礎③	対人援助における基本的態度を理解する ・「受容」「共感」「傾聴」の重要性　・「ポライトネス」と「アサーティブネス」
	10	コミュニケーションの基礎④	援助的人間関係の形成を理解する ・対人援助における基本的態度～バイステックの7つの原則
	11	組織におけるコミュニケーション①	組織の条件と組織における情報の流れについて学習する ・組織の目的と組織の構造　・「トップダウン」「ボトムアップ」「メンバーシップ」のコミュニケーション
	12	組織におけるコミュニケーション②	組織において求められるコミュニケーションを学習する ・「報告・連絡・相談」の重要性　・ブレーンストーミングなど
	13	コミュニケーション技法を活かす①	スーパービジョンの機能と役割を学習する ・スーパービジョンの種類と実際
	14	コミュニケーション技法を活かす②	記録としてのコミュニケーションを理解する ・記録の目的と役割、記録の留意点
	15	まとめと振り返り	これまでのポイントを整理する
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	チームマネジメント				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践を学ぶ。 ・チームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を身につける。 ・組織の機能や構造について理解し、チームの構成や役割について説明できる。 ・実践力を高めるために必要な、人材育成・開発の仕組み（OJT、Off-JT等）方法について理解できる。 ・多様なキャリアを知り、自身のキャリアデザインと自己研鑽に必要な姿勢を考えることができる。 ・チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座1　第2版　人間の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	ヒューマンサービスとしての介護サービス	1．サービスの4つの特性と介護サービス 2．介護サービスとほかのサービスの相違点
	2	介護現場で求められるチームマネジメント	1．マネジメントとチームマネジメント　2．介護福祉士にチームマネジメントが求められる理由　3．介護福祉士に期待される役割
	3	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み	1．ケアを展開するためのチームマネジメント　2．人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント3．組織の目標達成のためのチームマネジメント
	4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み	1．ケア実践の場や内容に応じて変わるチーム　2．チームとメンバーの相互関係 3．介護福祉士がかかわるチームの取り組み
	5	チームでケアを展開するためのマネジメント	1．情報を共有する　2．情報を統合し方針を明確にする 3．評価・修正の機会をつくる
	6	チームの力を最大化するためのマネジメント	1．リーダーシップとフォロワーシップの機能 2．リーダーシップとフォロワーシップをバランスよく発揮する
	7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力	1．キャリアをイメージする 2．初任期～ベテラン期に求められる実践力
	8	介護福祉職としてのキャリアデザイン	1．キャリアパスとキャリアデザイン 2．キャリア開発を支える
	9	介護福祉職のキャリア支援・開発	1．OJT（職務を通じた教育訓練）☑ Off-JT（職務を離れた教育訓練） 3．自己研鑽を支える体制
	10	自己研鑽に必要な姿勢	1．サービスの質を向上させる　2．研修を活用する 3．キャリア開発・キャリア支援に対する姿勢
	11	介護サービスを支える組織の構造	1．日々の介護サービスを支える組織の存在　2．組織の理解 3．組織の階層構造
	12	介護サービスを支える組織の機能と役割	1．経営基盤の安定と法令順守・健全な組織運営　2．理念や運営方針と事業計画の作成・共有　3．教育・研修体制づくりと人間関係づくり
	13	介護サービスを支える組織の管理	1．介護業務などの管理　2．労務管理 3．人材の確保・育成
	14	介護における組織の目標達成の実践	1．組織の理念について考える 2．委員会について考える
	15	まとめ	振り返り・まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	福祉社会を支える制度				指導担当者名	添田　祐司
実務経験	社会福祉士				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護実践に必要な知識という観点から、社会保障制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、介護実践を支える教養を高め、総合的な判断力および豊かな人間性を養う。 1. 生活と社会の関係性を体系的に理解する。 2. 地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識について理解する。 3. わが国の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する。 4. 高齢者福祉、障害者福祉および権利擁護等の制度・施策について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座2　第2版　社会の理解（中央法規） 福祉小六法2023（中央法規）　　七訂　介護福祉用語辞典（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	社会と生活のしくみ①	1. 生活を幅広くとらえる 2. 生活の基本機能
	2	社会と生活のしくみ②	1. ライフスタイルの変化2. 家族の機能と役割
	3	社会と生活のしくみ③	1. 社会・組織の機能と役割　2. 地域・地域社会 3. 地域社会における生活支援
	4	地域共生社会の実現に向けた制度や施策①	1. 地域福祉の発展
	5	地域共生社会の実現に向けた制度や施策②	1. 地域共生社会　2. 地域包括ケア
	6	社会保障制度①	1. 社会保障の基本的な考え方
	7	社会保障制度②	1. 日本の社会保障制度の発達
	8	社会保障制度③	1. 日本の社会保障のしくみ① 1)実施体制　2)しくみ　3)体系
	9	社会保障制度④	1. 日本の社会保障のしくみ② 1)年金保険　2)医療保険　3)介護保険
	10	社会保障制度⑤	1. 日本の社会保障のしくみ③　4)雇用保険と労働者災害補償保険　5)各種社会扶助 2. 現代社会と社会保障制度
	11	介護実践に関連する諸制度①	1. 個人の権利を守る制度・施策①　1)虐待防止　2)権利擁護
	12	介護保険に関連する諸制度②	1. 個人の権利を守る制度・施策② 3)消費者保護　4)その他の制度
	13	介護実践に関連する諸制度③	1. 保健医療に関する制度・施策　1)保健医療　2)生活習慣病の予防・対策 3)結核・感染症の予防・対策　4)HIV／エイズの予防・対策
	14	介護実践に関連する諸制度④	1. 貧困対策・生活困窮者支援に関する制度・施策 1）生活保護法　2)生活困窮者自立支援法　3)その他
	15	介護実践に関連する諸制度⑤	1. 地域生活を支援する制度・施策 1）就労支援・雇用促進　2)住生活の支援　3)自殺予防4)その他
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	生活を支える制度				指導担当者名	添田　祐司
実務経験	社会福祉士				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	対象者の生活を地域の中で支えていく観点から、介護保険制度や障害者総合支援制度を中心に、地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を養う。 1. わが国の社会保障の基本的な考え方としくみについて理解する。 2. 高齢者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、および介護保険制度について理解する。 3. 障害者保健福祉制度の基本的な考え方としくみ、および障害者総合支援制度について理解する。 4. 地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座2　第2版　社会の理解（中央法規） 福祉小六法（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	社会保障制度	1. 社会保障の基本的な考え方　2. 日本の社会保障制度の発達 3. 日本の社会保障制度のしくみ
	2	高齢者保健福祉と介護保険制度①	1. 高齢者保健福祉の動向
	3	高齢者保健福祉と介護保険制度②	1. 高齢者保健福祉に関連する法体系
	4	高齢者保健福祉と介護保険制度③	1. 介護保険制度創設の背景と目的
	5	高齢者保健福祉と介護保険制度④	1. 介護保険制度のしくみの基本的理解① 1)保険者と被保険者　2)介護保険料　3)財源
	6	高齢者保健福祉と介護保険制度⑤	1. 介護保険制度のしくみの基本的理解② 4)保険給付　5)利用者負担　6)利用手続き
	7	高齢者保健福祉と介護保険制度⑥	1. 介護保険制度のしくみの基本的理解③ 7)サービスの種類と内容　8)苦情処理　9)介護報酬
	8	高齢者保健福祉と介護保険制度⑦	1. 介護保険制度のしくみの基本的理解④ 10)地域支援事業　11)地域包括ケアシステム
	9	高齢者保健福祉と介護保険制度⑧	1. 介護保険制度における組織、団体の役割 2. 介護保険制度における介護支援専門員の役割　3. 介護保険制度の動向
	10	障害者保健福祉と障害者総合支援制度①	1. 障害者保健福祉の動向
	11	障害者保健福祉と障害者総合支援制度②	1. 障害者保健福祉に関連する法体系
	12	障害者保健福祉と障害者総合支援制度③	1. 障害者総合支援制度① 1)障害者総合支援制度創設の背景および目的　2)市町村、都道府県、国の役割
	13	障害者保健福祉と障害者総合支援制度④	1. 障害者総合支援制度② 3)自立支援給付と地域生活支援事業　4)財源と利用者負担
	14	障害者保健福祉と障害者総合支援制度⑤	1. 障害者総合支援制度③ 5)障害福祉サービスの種類と内容、利用手続き　6)障害支援区分の認定
	15	障害者保健福祉と障害者総合支援制度⑥	1. 障害者総合支援制度④　7)協議会と基幹相談支援センター 8)相談支援事業と相談支援専門員　9)障害児を支える障害者総合支援制度
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護ロボット概論				指導担当者名	岡崎　史紹
実務経験	スマート介護士資格エキスパート				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護ロボットを介護現場で運用するための正しい知識を身につけ、介護ロボット導入を主体的に行うことのできる介護福祉士を目指す。 ・介護ロボットを取り巻く環境を把握、理解することにより、介護の質と生産性を向上するための知識を養う。 ・介護ロボットの種類や導入することの効果を理解し、説明できる。 ・介護ロボットの導入が介護負担軽減や介護の質の向上につながることを理解できる。 ・介護ロボット導入後の評価方法を理解できる。 ・スマート介護士Basicに合格できる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	三訂版　スマート介護士資格公式テキスト （実業之日本社）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	介護ロボット概論①	1. 介護ロボットとは何か
	2	介護ロボット概論②	1. 介護ロボットを取り巻く状況 2. 介護ロボットの普及に向けて
	3	介護ロボット概論③	1. 介護現場での介護ロボットの活用法を考える
	4	介護基礎論①	1. 介護の基本的な考え方
	5	介護基礎論②	1. 介護保険制度と介護サービス
	6	介護基礎論③	1. 介護技術 2. 介護職の負担軽減につながる介護ロボットとは
	7	介護オペレーション基礎論	1. 介護オペレーション基礎論
	8	介護ロボットの評価論	1. 介護ロボットの評価方法
	9	介護ロボットの導入と運用の実践①	1. 介護ロボットの導入と運用 2. 課題設定　3. 解決策立案
	10	介護ロボットの導入と運用の実践②	1. 導入機器選定 2. 導入準備　3. 運用
	11	介護業務支援システムの導入	1. 介護業務支援システムとは　2. 介護業務支援システムが必要な理由 3. 介護業務支援システムの具体例（SCOP）
	12	スマート介護士資格試験対策①	1. 対策問題
	13	スマート介護士資格試験対策②	1. 対策問題
	14	スマート介護士資格試験対策③	1. 対策問題
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	基礎心理学				指導担当者名	佐藤 明宏
実務経験	臨床心理士・公認心理士				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護サービスを提供する際の基本となる「人間の基礎心理」、「こころのしくみ」について学ぶ。介護の場で「こころに沿った支援」ができるようにこころの働きやしくみの発達的変化について理解する。 1. 基本的な心理学の概要を知る。 2. こころと脳のはたらきを理解する。 3. こころと脳の障害を理解して、対人援助場面で応用する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	はじめて出会う心理学　第3版（有斐閣アルマ）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	心理学とは何か	1. 心理学の定義　2. 学問として心理学の成立 3.「自分理解」の心理学
	2	パーソナリティとは	1. パーソナリティの類型、発達 2. 健康なパーソナリティ　3. パーソナリティ障害
	3	検査実習	1. 性格・人格検査の実施と解釈 2. 検査結果を通して自己理解を図る
	4	発達とは	1. 発達の原理とその要因 2. 発達の段階
	5	発達とは②	1. 各発達段階の特徴 2. 青年期の課題
	6	知覚・認知とは	1. 知覚・認知の意味　2. 知覚・認知と脳のはたらき 3. 脳損傷による知覚・認知の障害
	7	学習とは	1. 条件付け 2. 動機付け
	8	知能とは	1. 知能とは　2. 思考とは 3. 認知症とは
	9	記憶とは	1. 記憶の過程 2. 記憶の種類
	10	コミュニケーションとは	1. コミュニケーションの発達 2. ことばの機能　3. 他者の心の理解
	11	コミュニケーショントレーニング	1. 傾聴練習
	12	コミュニケーショントレーニング②	1. マイクロカウンセリング
	13	適応とは	1. 適応　2. 欲求不満 3. 適応機制
	14	社会的行動とは	1. 対人認知　2. 社会的態度 3. 集団と個人
	15	介護職としてのこころ	1. 介護をするときのこころの準備 2. 介護をするときに必要なこころの状態
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	オフィスワード概論				指導担当者名	渡邉　祐子
実務経験	Microsoft Office User Specialist word/Excel Expert				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	1. Wordの基本的な操作を理解し、文書作成が理解できる。2. 施設におけるWordの活用ができる。 ・データを取得する基礎能力を身につける。 ・データから情報を解析・読み取りを行う能力を身につける。 ・情報を発信する能力を身につける。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	Word2021　クイックマスター基本編　（ウイネット） Word文書処理技能認定試験問題集 3級 2021対応　（ウイネット）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	wordの基本	1. オリエンテーション　　2. Wordの起動、画面構成、既存の文書を開く 3. 画面の操作、画面の表示モード、ワードの終了
	2	文字の入力と編集の基本操作	1. 新規文書の作成、日本語入力システム　　2. 文字の入力と変換、単語の登録 3. 文書の保存、文書の選択、文字列の編集とコピー移動
	3	文書の編集・印刷	1. ページの書式設定、文字の書式設定　　2. 文字幅と文字間隔の設定、文字列の配置、行下げと行間の設定　　3. 禁則処理、罫線と網掛け、改ページ挿入、ヘッダーとフッター、印刷
	4	文書の作成	1. 入力オートファーマット／あいさつ文　　2. 入力オートフォーマット／段落番号、段落番号の書式設定　　3. 段落番号の書式設定、箇条書きの設定
	5	文書の作成	1. タブ、インデント、クリックアンドタイプ 2. ビジネス文書の作成例
	6	文書の作成	1. 基本的な文章の作成（鑑の作成等）
	7	表を使った文書の作成	1. 表の作成、表の選択方法、表の編集　　2. 表の装飾 3. 文字列から表を作成する
	8	表を使った文書の作成	1. 表を使った文書の作成
	9	図形や画像を使った文書の作成	1. 図形の作成、図形の編集 2. 画像の挿入
	10	図形や画像を使った文書の作成	1. 横書きテキスト、ボックスの挿入 2. ワードアートの挿入
	11	Word総合学習	1. 施設におけるWordの活用（会報・イベント案内等）
	12	Word総合学習	1. 施設におけるWordの活用（会報・イベント案内等）
	13	Word総合学習	1. 施設におけるWordの活用（会報・イベント案内等）
	14	Word総合学習	1. 施設におけるWordの活用（会報・イベント案内等）
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護事務				指導担当者名	清水　美紀
実務経験	社会福祉士・介護事務管理士				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護保険制度の仕組みを理解し、介護報酬請求を正確に行う知識とスキルを身につける 1. 介護保険制度の仕組みを理解する 2. それぞれのサービスごとに、介護報酬請求単位を正確に算定できる 3. 介護保険制度と他制度との関係を理解する					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	介護事務テキスト1、テキスト2、資料ブック、理解度チェック課題、介護試験問題集					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護保険制度の基礎知識	介護保険の仕組み
	2	介護保険サービス提供の流れ	介護保険サービス提供の流れ
	3	介護保険サービスの種類と内容	介護保険サービスとサービス内容
	4	介護報酬の算定	・介護報酬とは　・介護報酬の基本的なルール　・介護報酬の申請者負担
	5	算定の仕方	居宅サービスの算定①
	6	算定の仕方	居宅サービスの算定②
	7	算定の仕方	居宅サービスの算定③
	8	算定の仕方	居宅サービスの算定④
	9	算定の仕方	生活支援サービスの算定
	10	算定の仕方	施設サービスの算定①
	11	算定の仕方	施設サービスの算定②
	12	算定の仕方	地域密着型サービスの算定①
	13	算定の仕方	地域密着型サービスの算定②
	14	請求と支払い	・請求と支払いのしくみ　・利用者負担の徴収　・他制度との関係
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護基礎論Ⅰ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・尊厳や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、人間観を養う。 ・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としてあるべき態度を養う。 ・介護に関連する施策の概要や介護福祉の基本となる理念を理解する。 ・社会福祉士及び介護福祉士法の概要や、介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ。 ・介護福祉士を支える職能団体や、知識・技術を高める生涯研修等の活動について理解する。 ・日本介護福祉士会の倫理綱領から、介護福祉士の専門性と職業倫理を学ぶ。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3　第2版 介護の基本Ⅰ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護福祉の基本となる理念	1．介護の成り立ち 2．専門職による「介護」が誕生した社会的な背景
	2	介護福祉の基本となる理念	1．介護の歴史①
	3	介護福祉の基本となる理念	1．介護の歴史②
	4	介護福祉の基本となる理念	1．現在の日本における介護問題
	5	介護福祉の基本となる理念	1．介護福祉の理念とは 2．尊厳を支える介護
	6	介護福祉の基本となる理念	1．「尊厳を支える介護」について考える
	7	介護福祉の基本となる理念	1．自立を支える介護
	8	介護福祉の基本となる理念	1．「自立を支える介護」について考える
	9	介護福祉士の役割と機能	1．介護福祉士が行うべき「生活支援」とは
	10	介護福祉士の役割と機能	1．事例から「個別ケア」について考える
	11	介護福祉士の役割と機能	1．介護福祉士の活動の場と役割
	12	介護福祉士の役割と機能	1．「地域包括ケアシステム」から住んでいる地域の支援を考える
	13	介護福祉士の役割と機能	1．災害時に求められる介護福祉士の役割
	14	介護福祉士の役割と機能	1．社会福祉士及び介護福祉士法
	15	介護福祉士の役割と機能	1．「心身の状況に応じた介護」について考える

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護基礎論Ⅰ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・尊厳や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解し、人間観を養う。 ・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としてあるべき態度を養う。 ・介護に関連する施策の概要や介護福祉の基本となる理念を理解する。 ・社会福祉士及び介護福祉士法の概要や、介護福祉士が守るべき義務規定の意味を学ぶ。 ・介護福祉士を支える職能団体や、知識・技術を高める生涯研修等の活動について理解する。 ・日本介護福祉士会の倫理綱領から、介護福祉士の専門性と職業倫理を学ぶ。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3　第2版 介護の基本Ⅰ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	16	介護福祉士の役割と機能	1.「義務規定」から介護福祉士が行う介護について考える
	17	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士養成カリキュラムの変遷 2. 求められる介護福祉士像
	18	介護福祉士の役割と機能	1.「求められる介護福祉士像」から介護福祉士に求められる役割を考える 2. 介護人材の中核となるリーダーとしての役割
	19	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士を支える団体
	20	介護福祉士の役割と機能	1. 食生活における多様性の尊重とその支援技術
	21	介護福祉士の役割と機能	1. 嗜好品などのニーズに対応できる支援のあり方
	22	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士としての身支度と身だしなみ
	23	介護福祉士の役割と機能	1. 介護福祉士としての余暇活動への支援
	24	介護福祉士の倫理	1. 介護実践における倫理
	25	介護福祉士の倫理	1. 倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
	26	介護福祉士の倫理	1. 日本介護福祉士会の倫理綱領
	27	介護福祉士の倫理	1. 利用者の尊厳を保持した倫理的介護実践
	28	介護福祉士の倫理	1.「日本介護福祉士会の倫理綱領」から専門職の態度を考える
	29	介護福祉士の倫理	1. 高齢者虐待とその背景について考える
	30	まとめ	まとめ
	31		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護基礎論Ⅱ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・自立支援におけるエンパワメントやICFの視点を介護の実践に応用することができる。 ・生活の多様性や社会とのかかわり、介護サービスを理解し、生活の個別性に対応することができる。 ・自立支援におけるエンパワメントやICF、リハビリテーションについて理解する。 ・生活の特性を理解し、その人らしさや多様性のある生活について学ぶ。 ・介護福祉を必要とする人の生活を支えるサービスと特性について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3　第2版　介護の基本Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座4　第2版　介護の基本Ⅱ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	自立に向けた介護	1．自立支援の考え方
	2	自立に向けた介護	1．利用者の意思決定を支援するために必要なかかわり方
	3	自立に向けた介護	1．ICFとストレングスの視点
	4	自立に向けた介護	1．自立支援とリハビリテーション
	5	自立に向けた介護	1．生活を通したリハビリテーション（生活リハビリ）
	6	自立に向けた介護	1．自立支援と介護予防
	7	自立に向けた介護	1．生活意欲と活動①
	8	自立に向けた介護	1．生活意欲と活動②
	9	介護福祉を必要とする人の理解	1．私たちの生活の理解
	10	介護福祉を必要とする人の理解	1．介護福祉を必要とする人たちの暮らし
	11	介護福祉を必要とする人の理解	1．介護福祉を必要とする人たちの生きてきた時代背景を知る①
	12	介護福祉を必要とする人の理解	1．介護福祉を必要とする人たちの生きてきた時代背景を知る②
	13	介護福祉を必要とする人の理解	1．介護福祉を必要とする人たちの生きてきた時代背景を知る③
	14	介護福祉を必要とする人の理解	1．事例から介護福祉士としてかかわる視点を整理する
	15	介護福祉を必要とする人の理解	1．「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護基礎論Ⅱ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・自立支援におけるエンパワメントやICFの視点を介護の実践に応用することができる。 ・生活の多様性や社会とのかかわり、介護サービスを理解し、生活の個別性に対応することができる。 ・自立支援におけるエンパワメントやICF、リハビリテーションについて理解する。 ・生活の特性を理解し、その人らしさや多様性のある生活について学ぶ。 ・介護福祉を必要とする人の生活を支えるサービスと特性について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験にて行う。 定期試験は100点法で評点する。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座3　第2版　介護の基本Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座4　第2版　介護の基本Ⅱ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	介護福祉を必要とする人の理解	1．生活のしづらさの理解とその支援 2．生活のしづらさを解消する介護福祉士の視点
	17	介護福祉を必要とする人の理解	1．家族介護者の理解と支援 2．認知症の人の列車事故から、家族介護者が抱える問題を考える
	18	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．高齢者のためのフォーマルサービス（居宅サービス）
	19	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．高齢者のためのフォーマルサービス（施設サービス）
	20	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．高齢者のためのフォーマルサービス（地域密着型サービス）
	21	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．高齢者のためのフォーマルサービス（地域支援事業）
	22	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．高齢者のためのフォーマルサービスについて、事例から考える
	23	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．障害者のためのフォーマルサービス
	24	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．生活を支えるインフォーマルサービス
	25	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．地域におけるインフォーマルサービスの役割を考える
	26	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．地域連携の意義と目的 2．地域連携にかかわる機関の理解
	27	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．事例から地域連携に必要な介護福祉士の役割を考える
	28	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．生活の中の様々なマーク（ピクトグラム）
	29	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ	1．すべての人が住みやすい環境について考える
	30	まとめ	まとめ
	31		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護基礎論Ⅲ				指導担当者名	大久保　悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護リーダーとしての役割を理解し、リスクマネジメントや他職種との連携協働、地域連携について知識を深める ・介護の場で、介護福祉士に必要とされる教育、管理的役割や協働のあり方を理解する ・利用者の生活を支える視点から、チームケア、他職種連携、地域連携のありり方を学ぶ ・介護における安全の確保、リスクマネジメントとは何か、リスク回避の方法を事例を通して学ぶ					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座4　第2版　介護の基本Ⅱ　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護職と多職種連携	1. 多職種連携の意義と目的 2. チームアプローチ
	2	協働職種の理解と連携のあり方	1. 介護支援専門員（ケアマネージャー）との連携 2. 社会福祉士・精神保健福祉士との連携
	3	利用者を取り巻く多職種連携の実際	1. 家族そして専門性を生かしたチームでの介護
	4	地域連携の意義と目的	1. 地域連携の形 2. 地域連携を進めるために、介護職の取るべき行動、考え
	5	地域連携に関わる機関の理解	1. 地域連携に関わる機関の機能と役割
	6	利用者を取り巻く地域連携の実際	1. 連携における介護福祉士と他の職種の役割の把握 2. 地域での活動のポイント
	7	介護リーダーとしての役割	1. 介護リーダーとは何かが理解できる。
	8	介護リーダーとしての役割	2. 施設における介護リーダーとしての役割が理解できる
	9	介護における安全の確保の重要性	1. 尊厳の保持と安全の確保 2. ケアの質の向上とリスクマネジメント
	10	安全確保のためのリスクマネジメント	1. 介護における安全確保とリスクマネジメント 2. リスクマネジメントに必要な要素
	11	生活を守る技術としてのリスクマネジメント	1. 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメント
	12	事故が発生した時の対応	1. 事故が発生した時の報告・記録
	13	事故事例による考察　1	1. 老健における転倒骨折事故の事例から
	14	事故事例による考察　2	2. 特養における朝の投薬ミスの事例から
	15	事故事例による考察　3	3. 知的障害者施設における異食事故から
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護基礎論Ⅳ				指導担当者名	高野　憲一
実務経験	ケア・マネジャー業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護者と利用者の安全を守るための考え方や方法について理解する ・感染症について、リスクマネジメントの観点から、予防や対処法を学ぶ ・介護職の特徴（特性）について、その専門性から考えてみる ・介護職自身の健康管理と安心して働ける環境について学ぶ					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験（70%）、提出物・発表状況（20%）、出席状況・授業態度（10%）を総合し、 100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座4　第2版　介護の基本Ⅱ　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	感染対策とリスクマネジメント	1. 感染管理・衛生管理　　2. 感染対策の3原則
	2	感染対策－Ⅰ	1. 生活の場での感染対策の基本と標準予防策
	3	感染対策－Ⅱ	1. 集団生活における感染対策　　2.高齢者介護施設と感染対策
	4	感染症発生時の対応	1. 感染拡大防止と行政への報告
	5	介護と看取りについて	1. 看取りとは　　2、介護職の看取りへの対応と実際
	6	介護職自身の健康管理	1. 介護職の特徴から見る介護職の心身の健康とストレスケア
	7	協働職種の理解と連携のあり方　Ⅱ	1. 医療専門職との連携について
	8	介護従事者の身体の健康管理　Ⅰ	1. 腰痛の予防と対策
	9	介護従事者の身体の健康管理　Ⅱ	1. 感染の予防と対策　　2. 深夜業・蓄積疲労と生活管理
	10	.「介護労働」の特徴	1. .「感情労働」　　2. 「介護」、「介助」、「支援」、「援助」とは
	11	安心して働ける環境づくり	1. 労働環境の整備・改善
	12	労働安全の基本原則	1. 労働基準法　　2. 労働安全衛生法
	13	介護を取り巻く状況の変化	1. 専門職としての介護福祉士　　2. 介護福祉士を育てる基礎教育
	14	生活者として	1. 生活者としての自分を介護福祉士の職業観に活かす
	15	まとめ	1. ふりかえり
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	コミュニケーション技術Ⅰ				指導担当者名	逵　乃介	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事					介護実務経験：	有
開講時期	前期			対象学科学年	介護総合マネジメント学科　1年		
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：	
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間		
学習到達目標	利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するために介護におけるコミュニケーションの意義や技法を学び、介護場面におけるコミュニケーション能力を養う。 1. 対人援助関係におけるコミュニケーションの基本と、利用者の状況に応じたコミュニケーション技術を学ぶ。 2. 利用者を支える家族とのコミュニケーションに際しての介護者のあり方を理解する。 3. 利用者やその家族とのかかわりにおいて大切な8つのコミュニケーション技法について学ぶ。						
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）						
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5　第2版　コミニュケーション技術（中央法規） ケア・コミュニケーション（ウイネット）　ケア・コミュニケーション問題集（ウイネット）						
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。						

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護を必要とする人とのコミュニケーション	1. 介護におけるコミュニケーションの意義と目的 2. 介護におけるコミュニケーションの展開過程
	2	介護におけるコミュニケーションの対象	1. コミュニケーションの果たす役割　2. 介護福祉職の職務とコミュニケーション 3. 介護福祉職のコミュニケーション支援の対象
	3	援助関係とコミュニケーション	1. 援助関係（ラポール）の特徴　2. 援助関係を構築するための原則 3. 介護における援助関係を意識したコミュニケーション
	4	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. 傾聴（「聞く」と「聴く」）2. 受容3. 共感
	5	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. 言語コミュニケーション 2. 非言語コミュニケーション、準言語コミュニケーション
	6	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. 動機づけ　2. ものの見方に変化を生み出す技術（リフレ―ミング） 3. 意思決定を支援するためのコミュニケーション
	7	介護を必要とする人とのコミュニケーションの実際	1. マズローの欲求階層説　2. 集団の定義と種類 3. 自然な集団と意図的な集団
	8	家族とのコミュニケーション	1. 家族の存在の重要性　2. 家族の気持ちの理解 3. 家族の意向表出の支援
	9	家族とのコミュニケーション	1. 家族を支援する視点　2. 意向と自立支援の関係 3. 利用者と家族の意向が対立する場合の対応
	10	家族とのコミュニケーション	1. 家族関係の介護への影響　2. 家族が持つ介護ストレス 3. 介護ストレスに対応したコミュニケーション
	11	チームのコミュニケーションとは	1. チームにおけるコミュニケーションの意義・目的　2. 多職種協働チームのコミュニケーション　3. 介護の実践場面におけるチームのコミュニケーション
	12	チームのコミュニケーションの実際	1. 会議の意義と目的　2. 会議の議事進行 3. プレゼンテーション
	13	チームのコミュニケーションの実際	1. 事例検討を行う意義・目的　2. 事例検討会場面の流れ 3. 事例検討会での注意点
	14	チームのコミュニケーションの実際	1. 事例検討を行う意義・目的　2. 事例検討会場面の流れ 3. 事例検討会での注意点
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	コミュニケーション技術Ⅱ				指導担当者名	逵　乃介
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	コミュニケーション障害の状態や原因について理解し、利用者の特性に応じたコミュニケーション能力を身につける。チームマネジメントの基本的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習をする。 1. 利用者の抱えるコミュニケーション障害の状態や、原因について理解する。 2. 利用者やその家族、他職種とのチームのコミュニケーション能力を身につける。 3. チーム内における円滑なコミュニケーションや、介護の質を高めるために必要な記録、報告、会議等の重要性を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座5　第2版　コミニュケーション技術（中央法規） ケア・コミュニケーション（ウイネット）　ケア・コミュニケーション問題集（ウイネット）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	コミュニケーション障害への対応の基本	1. コミュニケーション障害とは　2. コミュニケーション障害の原因 3. コミュニケーション支援の基本
	2	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 視覚障害の特徴　2. 基本的なコミュニケーション支援 3. コミュニケーション支援のツール
	3	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 聴覚障害の特徴　2. 基本的対応 3. コミュニケーション支援のツール
	4	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 構音障害の特徴　2. 基本的対応 3. コミュニケーション支援のツール
	5	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 失語症の特徴とコミュニケーションの実際　2. 基本的対応 3. 心理的問題への配慮
	6	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 認知症の特徴　2. 基本的対応 3. 進行度合いに応じたコミュニケーション技術
	7	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 精神障害のある人とのコミュニケーション 2. うつ病・抑うつ状態の特徴と基本的対応　3. 統合失調症の特徴と基本的対応
	8	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 知的・発達障害の人へのコミュニケーション 2. 基本的対応
	9	障がいの特性に応じたコミュニケーションの実際	1. 様々な方の障害の特性に応じたコミュニケーションの実際
	10	チームコミュニケーションの意義	1. 報告・連絡・相談の意義　2. 報告・連絡・相談の技術 3. 報告・連絡・相談を促進する環境づくり
	11	チームコミュニケーションの実際	1. 記録の意義　2. 記録の目的 3. 記録の種類
	12	チームコミュニケーションの実際	1. 記録の方法と書き方
	13	チームコミュニケーションの実際	1. 記録の方法と書き方　2. 記録の実際 （介護記録、チェック表、家族との連絡記録、ヒヤリハット・事故報告記録等）
	14	チームコミュニケーションの実際	1. 介護実践における情報活用の重要性　2. ICTの活用 3. 個人情報の保護と活用
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	手話				指導担当者名	佐藤　邦子・富山　里美
実務経験	手話通訳指導者				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	聴覚障害者のコミュニケーション方法を理解する。 ①手話や指文字を学び、手話で会話する楽しさを体験する。 ②聴覚障害者の歴史や文化を学ぶ。 ③手話の学習を通して福祉の心（相手を思いやる心）を学ぶ。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	手話を学ぼう　手話ハンドブック　日本聴覚障害者協会					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	導入	1. ビデオ鑑賞「私の大切な家族」を観て感想文を書く 2. 講義「聴覚障害者のコミュニケーションについて」　3. 実技　指文字　名前の表し方
	2	手話講座①	第1講座　伝えあってみましょう 第2講座　名前を紹介しましょう
	3	手話講座②	第3講座　家族を紹介しましょう
	4	手話講座③	第4講座　数字を覚えましょう 講義「聴覚障害の基礎知識」
	5	手話講座④	第5講座　趣味について話しましょう
	6	手話講座⑤	第6講座　仕事について話しましょう
	7	手話講座⑥	第7講座　住所を紹介しましょう 講義 「聴覚障害者の生活と福祉」
	8	手話講座⑦	第8講座　まとめ（自己紹介）
	9	手話講座⑧	第9講座　時制について話しましょう
	10	手話講座⑨	第10講座　会話してみましょう①　～旅行について～
	11	手話講座⑩	第11講座　会話してみましょう② ～医療について～講義「聴覚障害者の医療・介護について」
	12	手話講座⑪	第12講座　会話してみましょう③　～学校について～
	13	手話講座⑫	第13講座　会話してみましょう④　～職場について～ 第14講座　会話してみましょう⑤　～災害について～
	14	手話講座⑬	第15講座　まとめ　手話劇発表
	15	まとめ	自己紹介の復習 手話スピーチ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	家事支援技術Ⅰ（栄養調理）				指導担当者名	菊池　節子
実務経験	栄養士・管理栄養士				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	栄養と調理の基本を学び、高齢者や障がい者の実際に応じた食生活を考え、対象となる方に応じた食事や、食形態が提案・提供できるようになる。 1. 基本的な栄養・食事形態・調理に関して学びを深める 2. 高齢者や障がい者に適した食材・食形態を知る 3. 調理や食品衛生についての基本的な知識を身につけ、演習を通して調理技術を学ぶ 4. 自立に向けた調理や高齢者の状態に合わせた食事選択・提供ができるよう学ぶ					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	なし					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	家事の基本となる知識（栄養）	栄養についての基本を学ぶ（五大栄養素等の働き）
	2	家事の基本となる知識（栄養）	栄養素とその働きについて学ぶ（アミノ酸、ミネラル、ビタミンの働き）
	3	家事の基本となる知識（栄養）	消化吸収・脱水のについて理解する
	4	家事の基本となる知識（栄養）	食べやすさの工夫と誤嚥窒息を予防する食事を理解する
	5	暮らしの中の栄養	人の年代別の栄養、ライフステージに合った食事内容①
	6	暮らしの中の栄養	人の年代別の栄養、ライフステージに合った食事内容②
	7	調理実習（基本介護食）	トロミ剤の形状・使用の仕方について 同一食材にて常食・ミキサー食・ゼリー食の展開
	8	調理実習（基本介護食）	トロミ剤の形状・使用の仕方について 同一食材にて常食・ミキサー食・ゼリー食の展開
	9	症状別栄養Ⅰ	糖尿病・高血圧・骨粗鬆症等の疾病について理解する
	10	症状別栄養Ⅱ	疾病の症状に合わせた食事内容
	11	調理実習（症状に合わせた献立）	糖尿病・高血圧食の調理実習（単位数での食事・塩分制限）
	12	調理実習（症状に合わせた献立）	糖尿病・高血圧食の調理実習（単位数での食事・塩分制限）
	13	調理実習（症状に合わせた献立）	骨粗鬆症・腎臓病食の調理実習
	14	調理実習（症状に合わせた献立）	骨粗鬆症・腎臓病食の調理実習
	15	総合まとめ	介護に活かせる栄養の知識
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	家事支援技術Ⅱ（被服）				指導担当者名	千葉　智子・三本木　茜
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり（千葉） 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり（三本木）				実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	生活の継続性を支援する視点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得する 1. 生活支援としての家事支援の意義と目的を理解する。 2. 自立に向けた住居環境の整備について理解し、実践できるように学ぶ。 3. 自立に向けた衣類寝具・裁縫について理解し、実践できるように学ぶ。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6　第2版　生活支援技術Ⅰ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	自立生活を支える家事支援	1. オリエンテーション　2. 自立生活を支える家事 3. 自立した家事の一連の流れ
	2	自立に向けた家事の介護	1. 洗濯の意義と介助方法 2. そうじ・ゴミ捨ての介助方法
	3	被服生活の基本	1. 自己表現、生きがいに通じる被服　2. 被服の管理（素材・洗濯・保管等） 3. 被服の補修
	4	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術（雑巾縫い等）
	5	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	6	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	7	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	8	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	9	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	10	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	11	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 衣類の補修（裁縫）の支援技術
	12	家事支援の基本となる知識と技術	1. 衣類・寝具の衛生管理の意義　2. 衣類・寝具の衛生管理 3. 整理整頓について
	13	家事支援の介護技術　（衣類・寝具）	1. 買い物　2. 家庭経営、家計の管理
	14	家事の介護における多職種との連携	1. 家事の介護における多職種連携の必要性　2. 在宅の場合の連携 3. 施設の場合の連携
	15	まとめ	1. まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	地域と食と生活				指導担当者名	菊池　節子
実務経験	栄養士・管理栄養士				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	栄養の基礎知識を基に高齢者や障がい者への実践的支援の力を養う。 おやつ・行事食・郷土食の提供ができる。 1. 高齢者や障がい者に適した食材・食形態でメニューを考案することが出来る 2. 演習を通して調理技術を学び対象者に合った食事の提供が出来る 3. 行事やおやつなど彩など考え目でも楽しめる工夫が出来る 4. 限られた調理器具や食材でもメニューを考え作ることが出来る					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	なし					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	介護食の基本	介護食の位置づけ・調理における支援とは何かを考える
	2	介護食の応用	様々な食品を使用してメニューを考案する 限られた調理器具での調理・時短メニューについて学ぶ
	3	調理実習	ホットプレートを使用しメニューを展開する
	4	調理実習	ホットプレートを使用しメニューを展開する
	5	郷土食・行事食①	一年を通しての行事メニューを考案する
	6	郷土食・行事食②	郷土に根付いた食事を理解する
	7	調理実習（郷土食）	食欲や楽しさにつながる郷土食の調理実習
	8	調理実習（郷土食）	食欲や楽しさにつながる郷土食の調理実習
	9	調理実習（行事食）	四季折々の中で迎える行事におけるメニューの調理実習
	10	調理実習（行事食）	四季折々の中で迎える行事におけるメニューの調理実習
	11	調理実習（加工品）	加工品を使用してのメニュー展開実習
	12	調理実習（加工品）	加工品を使用してのメニュー展開実習
	13	調理実習（総合実習）	用意された食材を見て、メニューを考案し調理する
	14	調理実習（総合実習）	用意された食材を見て、メニューを考案し調理する
	15	総合まとめ	食事・調理支援まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	日常生活支援技術Ⅰ				指導担当者名	千葉　智子・大久保　悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり（千葉） 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり（大久保）				実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援を理解する。 ・住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6　第2版　生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座7　第2版　生活支援技術Ⅱ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	タ―ム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護福祉士が行う生活支援技術の意義・目的	1．オリエンテーション、日常生活支援技術とは 2．生活支援の基本的な考え方
	2	生活支援の理解	1．生活支援と介護過程
	3	居住環境の整備	1．住まいの役割と機能 2．生活空間
	4	居住環境の整備	1．快適な室内環境 2．介護実習室における物品の管理方法の理解（衣類の畳み方等の管理を含む）
	5	居住環境の整備	1．安全に暮らすための生活環境 2．居住環境の整備における多職種との連携
	6	介護福祉職としての身だしなみ	1、介護福祉職としての身だしなみを整える意義と目的 2．手洗い等の衛生管理について
	7	自立に向けた身じたく	1．自立に向けた身じたくとは 2．自立した身じたくとしての着る介護（座位）
	8	自立に向けた身じたく	1．自立に向けた身じたくの介護（手浴）
	9	自立に向けた移動の介護	1．自立した移動とは 2．移動・移乗の基本的理解（ボディメカニクスについて）
	10	自立に向けた移動の介護	1．介護支援ロボットの活用方法
	11	休息・睡眠環境を整える	1．ベッドメーキングを行い、休息・睡眠環境を整える
	12	休息・睡眠環境を整える	1．ベッドメーキングを行い、休息・睡眠環境を整える
	13	移動・移乗の介助における基本的な視点	1．移動・移乗の介助における基本的な視点 2．関節可動域の理解、麻痺の障害部位
	14	体位変換	1．自立度別身体の移動（上方移動、水平移乗、側臥位） 2．上方移動における介護の留意点
	15	休息・睡眠環境を整える	1．ベッドメーキングを行い、休息・睡眠環境を整える

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	日常生活支援技術Ⅰ				指導担当者名	千葉　智子・大久保　悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり（千葉） 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり（大久保）				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。 ・ICFの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援を理解する。 ・住まいの多様性を理解するとともに、居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6　第2版　生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座7　第2版　生活支援技術Ⅱ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	16	ベッド上での衣服着脱の介助	1．体位変換の技術をもとに、ベッド上での一部介助び方法が理解できる
	17	ベッド上での衣服着脱の介助	1．体位変換の技術をもとに、ベッド上での一部介助・全介助の方法が理解できる
	18	体位変換　起き上がり～端座位	1．自立度別起き上がりから端座位（長坐位から端座位） 2．起き上がりから端座位への介護の留意点
	19	体位変換　起き上がり～端座位	1．自立度別起き上がりから端座位（側臥位から端座位） 2．起き上がりから端座位への介護の留意点
	20	安楽な姿勢・体位の保持	1．褥瘡の予防について 2．安楽な体位におけるアセスメントの視点
	21	安楽な体位の保持のための介護の実際	1．体位別の介護の手順 2．体位を保持するための道具・用具
	22	車いすの介助	1．車いすの基本構造 2．車いすの基本的な使い方
	23	ベッドから車いすへの移乗の介助	1．ベッドから車いすへの移乗介助の基本的理解 2．麻痺のある方利用者の介助
	24	ベッドから車いすへの移乗の介助	1．ベッドから車いすへの移乗介助の基本的理解 2．麻痺のある方利用者の介助
	25	自立度別車いすの介助	1．ベッド⇔車いすの介助 2．段差・坂道・エレベーター等の介助
	26	自立度別車いすの介助	1．ベッド⇔車いすの介助 2．段差・坂道・エレベーター等の介助
	27	福祉用具の意義と活用	1．ベッド・ベッド周り・リフト、移乗器等 2．車いす・歩行補助用道具等
	28	歩行介助	1．歩行介助におけるアセスメントの視点 2．自立度別歩行介助
	29	ベッドから車いすへの移乗の介助	1．麻痺のある方利用者の介助（事例を通して演習）
	30	他職種の役割と協働	1．移動・移乗の介護に関する他職種の役割 2．よりよい生活支援に向けて、他職種と連携することの意味
	31		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	日常生活支援技術Ⅱ				指導担当者名	千葉　智子・大久保　悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり（千葉） 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり（大久保）				実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。 ・健康を維持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6　第2版　生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座7　第2版　生活支援技術Ⅱ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	自立に向けた身じたくの介護	1．洗顔、洗髪・整髪、ひげの手入れ
	2	自立に向けた身じたくの介護	1．洗顔、洗髪・整髪、ひげの手入れ
	3	自立に向けた身じたくの介護	1．爪・耳の手入れ
	4	自立に向けた身じたくの介護	1．化粧・整髪の介護
	5	自立に向けた身じたくの介護	1．座位・臥位での口腔ケア
	6	自立に向けた食事の介護	1．食事の意義と目的
	7	自立に向けた食事の介護	1．自立に向けた食事の介護 2．食欲をそそる献立、食事の形態（とろみ食、介護食等）
	8	自立に向けた食事の介護	1．介護の基本原則にのっとった食事の介護 2．利用者の状態に応じた食事の介護（座位）
	9	自立に向けた食事の介護	1．介護の基本原則にのっとった食事の介護 2．利用者の状態に応じた食事の介護（臥位）
	10	自立に向けた食事の介護	1．食事の介護における多職種（言語聴覚士）との連携 2．誤嚥の予防のための支援（嚥下体操等）
	11	自立に向けた食事の介護	1．食事の介護における多職種（言語聴覚士）との連携 2．利用者への摂食指導と、介護福祉職や家族への食事介助の指導について
	12	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．自立した入浴・清潔保持とは 2．自立した入浴の一連の流れ
	13	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．ベッド上での洗髪の介護
	14	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．ベッド上での洗髪の介護
	15	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．全身清拭の介護
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	日常生活支援技術Ⅱ				指導担当者名	千葉　智子・大久保　悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり（千葉） 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり（大久保）				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・対象者の能力を活用・発揮し、自立を支援するための生活支援技術の基本を習得する。 ・介護支援ロボットを含め、福祉用具を活用する意義やその目的を理解する。 ・健康を維持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6　第2版　生活支援技術Ⅰ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座7　第2版　生活支援技術Ⅱ（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．全身清拭の介護
	17	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．入浴の介助（入浴の準備～個浴での介助方法）
	18	自立に向けた入浴・清潔保持の介護	1．入浴の介助（入浴の準備～特殊浴槽（機械浴）での介助方法）
	19	自立に向けた排泄の介護	1．自立した排泄とは 2．自立した排泄の一連の流れ
	20	自立に向けた排泄の介護	1．車いす利用者の介助
	21	自立に向けた排泄の介護	1．おむつでの排泄の介助
	22	自立に向けた排泄の介護	1．おむつでの排泄の介助
	23	自立に向けた排泄の介護	1．尿器・差し込み便器の排泄の介助 2．差し込み便器の種類
	24	自立に向けた排泄の介護	1．尿器・差し込み便器の排泄の介助 2．差し込み便器の種類
	25	自立に向けた排泄の介護	1．ポータブルトイレでの排泄の介助方法
	26	自立に向けた排泄の介護	1．ポータブルトイレでの排泄の介助方法
	27	自立に向けた排泄の介護	1．ポータブルトイレでの排泄の介助方法
	28	休息・睡眠の介護	1．休息・睡眠の意義と目的　2．快適な睡眠の一連の流れ　3．安眠を阻害する要因　4．安眠をうながす介護をするために介護福祉職がすべきこと
	29	休息・睡眠の介護	1．安眠をうながす介護（足浴・手浴等）
	30	休息・睡眠の介護	1．休息・睡眠環境を整える 2．ベッドメーキング（一人での行う方法）
	31		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	応急手当と災害時における生活支援				指導担当者名	千葉　智子
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				看護実務経験：	有
開講時期	前期			対象学科学年	介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習:〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	被災していても、個々の潜在能力が発揮できるような個別支援的かかわりを習得し、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。 ・介護福祉職としての応急手当の方法を理解する。 ・被災者に対する支援の方法として、状況に応じた生活支援を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座6　第2版　生活支援技術Ⅰ　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	生活支援の理解	1. 生活支援とチームアプローチ 2. ライフステージとチームアプローチ
	2	応急手当について	1. 想定される事故と予防の視点
	3	応急手当の実際	1. 応急手当の実際を想定して実践し理解する
	4	応急手当の実際	1. 応急手当の実際を想定して実践し理解する
	5	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する　2. 救急救命士との連携方法を学ぶ　3. 想定される事故と予防の視点を理解する
	6	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する　2. 救急救命士との連携方法を学ぶ　3. 想定される事故と予防の視点を理解する
	7	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する　2. 救急救命士との連携方法を学ぶ　3. 想定される事故と予防の視点を理解する
	8	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する　2. 救急救命士との連携方法を学ぶ　3. 想定される事故と予防の視点を理解する
	9	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する　2. 救急救命士との連携方法を学ぶ　3. 想定される事故と予防の視点を理解する
	10	緊急時の対応の知識と技術	1. 想定される事故と予防の視点を理解する　2. 救急救命士との連携方法を学ぶ　3. 想定される事故と予防の視点を理解する
	11	災害時における生活支援	1. 被災地で活動する際の心構え
	12	災害時における生活支援	1. 災害時における生活支援（災害直後の支援）
	13	災害時における生活支援	1. 災害時における生活支援（支援体制が整ってきたあとの支援）
	14	災害時における生活支援	1. 災害時における生活支援（支援体制が整ってきたあとの支援）
	15	災害時における生活支援	災害時の多職種協働
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	スポーツレクリエーション学				指導担当者名	千葉　智子・大久保　悦美
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり（千葉） 介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり（大久保）				実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護予防の観点から、スポーツレクリエーションを通しての日々の生活に楽しみを見出し「その人らしい生活」への支援の方法を身につける 1. スポーツレクリエーションの定義や目的について理解する 2. スポーツ未経験者を掘起し、スポレクの日常的・継続的な活動へ誘う手法を理解する 3. 行政と連携したスポレク事業を実施するための方法・手法を理解する 4. 高齢者の心理的特徴を理解し、運動による気分・抑うつ状態の改善や心理的な効果を学ぶ 5. スポーツ未実施者をスポレク事業への参加と継続への支援の方法を学ぶ					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト（日本レクリエーション協会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	スポーツレクリエーション　概論	1. スポーツ・インライフの理念 2. レクリエーションをとおした心の元気づくり
	2	スポーツ・レクリエーション生理学・心理学	1. ステージに応じた体の仕組みと必要な運動/実施の留意点　2. スポーツレクリエーション活動がもたらす心理的効果　3.. 動機でうけの理論と自主的主体的な活動につなげる心の仕組み
	3	生理学・心理学に基づいた スポーツ・レクリエーション活動の実践①	1. 幼児期の体の仕組みに合わせた楽しい運動実践
	4	生理学・心理学に基づいたス ポーツ・レクリエーション活動の実践②	1. 学童期の体の仕組みに合わせた楽しい運動実践
	5	スポーツ未実施者に適した 種目の習得1－①	1. 種目プログラム1-①
	6	スポーツ未実施者に適した 種目の習得1－②	1. 種目プログラム1-②
	7	スポーツ未実施者に適した 種目の習得2－①	1. 種目プログラム2-①
	8	スポーツ未実施者に適した 種目の習得2－②	1. 種目プログラム2-②
	9	生理学・心理学に基づいた スポーツ・レクリエーション活動の実践③	1. 高齢期の体の仕組みに合わせた楽しい運動実践①
	10	生理学・心理学に基づいた スポーツ・レクリエーション活動の実践④	1. 高齢期の体の仕組みに合わせた楽しい運動実践②
	11	スポーツ未実施者に適した 種目の習得3-①	1. 種目プログラム3-①
	12	スポーツ未実施者に適した 種目の習得3-②	1. 種目プログラム3-②
	13	スポーツ未実施者に適した 種目の習得4-①	1. 種目プログラム4-①
	14	スポーツ未実施者に適した 種目の習得4-②	1. 種目プログラム4-②
	15	社会における スポーツ・レクリエーションの必要性	1. スポーツ・レクリエーションが現代社会の課題である子どもの体力向上や高齢者の健康寿命の増進に果たす役割　2. 資格取得後の地域、職場等での活動事例の学習。日本協会等からの情報支援の活用方法
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	レクリエーション理論				指導担当者名	齋藤　公子
実務経験	福島県レクリエーション協会　常務理事　事務局長				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護や医療の現場で、「より良い生活・人生」を追及するために欠くことのできないレクリエーションに関わる諸活動を実践するために必要とされる人間や集団の理解、自主的・主体的な取り組みを促す動機づけ、他者とのコミュニケーションのあり方等について、その基礎となる理論を学ぶ。 1. レクリエーションの意義とレクリエーション運動の歴史・使命・仕組み、制度等について理解する。 2. 現代社会の中で、個人のライフスタイルや家族、地域社会の置かれている状況、少子高齢社会の課題を確認し、レクリエーション支援が必要とされる具体的な場面について理解を深める。 3. 楽しさを原動力とし、心を元気にするレクリエーション活動について理解を深めるとともに、自主的・主体的な取り組みを促す方法について理解を深める					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法（公益財団法人日本レクリエーション協会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	楽しさと心の元気づくりの理論1	・授業内容についてのガイダンス　・レクリエーションの主旨 ・楽しさをとおした心の元気づくり
	2	良好な集団づくりの理論と実際1	・レクリエーション活動の二つの楽しさの理解　・良好な集団づくりとレクリエーション ・集団の理解とレクリエーション活動をとおした良好な集団づくり
	3	良好な集団づくりの理論と実際2	・集団内のコミュニケーションの促進とレクリエーション　・良好な集団づくりの方法としてのアイスブレーキング　・アイスブレーキングのプログラムモデル1
	4	良好な集団づくりの理論と実際3	・アイスブレーキングのプログラムモデル2　・アイスブレーキングの効果を高める支援技術　・レクリエーション援助の基本技術としてのアイスブレーキング
	5	楽しさと心の元気づくりの理論2	・ライフステージとレクリエーション　・子どもを育む地域の絆づくりとレクリエーション ・高齢者の支える地域の絆づくりとレクリエーション
	6	自主的、主体的に楽しむ力を育む理論	・自主的・主体的な取り組みを促す心の仕組みとレクリエーション　・成功体験を支えあうレクリエーション主体のかかわり　・レクリエーション・ワークの総体としてのレクリエーション支援
	7	リスクマネジメントの理論	・リスクマネジメントの心構え　・リスクマネジメントの方法　・リスクの予知と対応
	8	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論と実際1	・ホスピタリティと信頼関係づくり　・レクリエーション支援におけるコミュニケーションの重要性　・信頼関係づくりの方法
	9	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論と実際2	・信頼関係づくりの方法としてのホスピタリティ　・ホスピタリティの意識と配慮 ・ホスピタリティのための自己開示
	10	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論と実際3	・ホスピタリティと交流分析　・心をひとつにするコミュニケーション技術 ・ホスピタリティとしての表現
	11	セラピューティックレクリエーションに関する理論1	・セラピューティックレクリエーション概論　・アセスメントの重要性とA-PIEプロセス ・プログラム立案の考え方
	12	セラピューティックレクリエーションに関する理論2	・介護領域におけるモデルプログラム1　・人間交流の段階的深まりについての考え方 ・人間交流の段階的深まりモデルに従ったプログラム
	13	セラピューティックレクリエーションに関する理論3	・介護領域におけるモデルプログラム2　・活動分析の考え方 ・活動分析に基づいたアクティビティの展開
	14	セラピューティックレクリエーションに関する理論4	・介護領域におけるモデルプログラム3　・TRの考え方に基づく重層的プログラムの考え方　・TRの考え方に基づく処方型とカフェテリア型のプログラム
	15	レクリエーション概論	・レクリエーションとは何か　・レクリエーション運動の歴史 ・レクリエーション運動を支える制度
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	レクリエーション活動援助法				指導担当者名	齋藤　公子
実務経験	福島県レクリエーション協会　常務理事　事務局長				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	人の尊厳を守るという観点から、本人の自立・自律を尊重し、見守りを含め、レクリエーション主体である介護サービス利用者の潜在能力を引き出すことのできるレクリエーション支援の方法を身につける。 1. コミュニケーションを促進しレクリエーションを可能にする素材となる基礎実技と、それを展開するための基礎的支援技術を身に付ける。 2. ホスピタリティトレーニングとアイスブレーキング実習をとおして、他者とコミュニケーションをとる態度や、集団の中でコミュニケーションを促進する方法を身に付ける。 3. 参加者の相互作用を活用し、現場のモチベーションを上げる支援技術を身に付ける。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、プログラム展開案の作成・実施における評価を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法　（公益財団法人日本レクリエーション協会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	レクリエーション支援の実際　1	アイスブレーキングに学ぶ基礎的支援技術1
	2	レクリエーション支援の実際　2	アイスブレーキングに学ぶ基礎的支援技術2
	3	レクリエーション活動の習得　1	介護福祉領域におけるモデルプログラムの体験1
	4	レクリエーション活動の習得　2	介護福祉領域におけるモデルプログラムの体験2
	5	レクリエーション活動の習得　3	レクリエーション活動における基礎実技の習得1
	6	レクリエーション活動の習得　4	レクリエーション活動における基礎実技の習得2
	7	レクリエーション活動の習得　5	レクリエーション活動における基礎実技の習得3
	8	レクリエーション活動の習得　6	レクリエーション活動における基礎実技の習得4
	9	レクリエーション活動の習得　7	レクリエーション活動における基礎実技の習得5
	10	レクリエーション活動の習得　8	レクリエーション活動における基礎実技の習得6
	11	レクリエーション活動の習得　9	レクリエーション活動における基礎実技の習得7
	12	レクリエーション活動の習得　10	レクリエーション活動における基礎実技の習得8
	13	レクリエーション支援の実際　3	成功体験を積み重ねるハードル設定1
	14	レクリエーション支援の実際　4	成功体験を積み重ねるハードル設定2
	15	レクリエーション支援の実際　5	参加者の相互作用の活用方法1
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	レクリエーション活動援助法				指導担当者名	齋藤　公子
実務経験	福島県レクリエーション協会　常務理事　事務局長				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	60時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	人の尊厳を守るという観点から、本人の自立・自律を尊重し、見守りを含め、レクリエーション主体である介護サービス利用者の潜在能力を引き出すことのできるレクリエーション支援の方法を身につける。 1. コミュニケーションを促進しレクリエーションを可能にする素材となる基礎実技と、それを展開するための基礎的支援技術を身に付ける。 2. ホスピタリティトレーニングとアイスブレーキング実習をとおして、他者とコミュニケーションをとる態度や、集団の中でコミュニケーションを促進する方法を身に付ける。 3. 参加者の相互作用を活用し、現場のモチベーションを上げる支援技術を身に付ける。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度、グループワークへの参加状況および参加態度、プログラム展開案の作成・実施における評価を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法　（公益財団法人日本レクリエーション協会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	16	レクリエーション支援の実際　6	参加者の相互作用の活用方法2
	17	レクリエーション支援の実際　7	成功体験を積み重ねるためのアレンジ3
	18	レクリエーション支援の実際　8	成功体験を積み重ねるためのアレンジ4
	19	レクリエーション支援演習　1	レクリエーション支援技術の一体的活用1
	20	レクリエーション支援演習　2	レクリエーション支援技術の一体的活用2
	21	レクリエーション支援演習　3	レクリエーション活動展開案の作成1
	22	レクリエーション支援演習　4	レクリエーション活動展開案の作成2
	23	レクリエーション支援演習　5	レクリエーションプログラム展開案の作成1
	24	レクリエーション支援演習　6	レクリエーションプログラム展開案の作成2
	25	レクリエーション支援演習　7	プログラム展開案の実施と評価1
	26	レクリエーション支援演習　8	プログラム展開案の実施と評価2
	27	レクリエーション支援演習　9	プログラム展開案の実施と評価3
	28	レクリエーション支援演習　10	プログラム展開案の実施と評価4
	29	レクリエーション支援演習　11	プログラム展開案の実施と評価5
	30	レクリエーション支援演習　12	プログラム展開案の実施と評価6
	31		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護過程Ⅰ				指導担当者名	大久保　悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護実践における介護過程の意義をふまえ、アセスメントの視点を理解する。 ・介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた生活課題の分析を行うことができる。 ・生活支援における介護過程の意義・目的について理解する。 ・ICFの考え方を活用した情報収集の方法を理解する。 ・アセスメントにおいて他科目で学んだ知識を統合する必要性を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9　第2版　介護過程　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護過程の意義の理解	1．介護過程とは 2．生活支援における介護過程の必要性
	2	介護過程の意義の理解	1．介護過程の全体像
	3	介護過程の意義の理解	1．イラストから支援に必要な知識や技術を考える
	4	介護過程の意義の理解	1．イラストから支援に必要な知識や技術を考える
	5	アセスメントの基礎的理解	1．介護過程とICF
	6	アセスメントの基礎的理解	1．アセスメント（情報収集） ・情報収集の意義と方法□
	7	アセスメントの基礎的理解	1．アセスメント（情報収集） ・ICFを活用した情報収集
	8	アセスメントの基礎的理解	1．アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） ・情報の解釈・関連づけ・統合化とは
	9	アセスメントの基礎的理解	1．アセスメント（解釈・関連づけ・統合化） ・事例を用いて情報の解釈・関連づけ・統合化（情報分析）を行う□
	10	アセスメントの基礎的理解	1．アセスメント(課題の明確化、ニーズの明確化） ・課題及びニーズの明確化とは　・ニーズの考え方と表現の仕方
	11	アセスメントの基礎的理解	1．アセスメント(課題の明確化、ニーズの明確化） ・事例を用いて課題及びニーズの明確化を行う
	12	アセスメントの基礎的理解	1．事例を用いたアセスメントの実践
	13	アセスメントの基礎的理解	1．事例を用いたアセスメントの実践
	14	アセスメントの基礎的理解	1．事例を用いたアセスメントの実践
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護過程Ⅱ				指導担当者名	大久保　悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護を必要とする人の望む生活の実現に向けた介護過程の展開により、根拠に基づく介護実践を考えることができる ・個別ケア提供における介護計画の意義や立案方法について理解する ・介護過程における実施や記録の意義及び留意点について理解する ・介護過程における評価の意義や個別ケアにおける評価の重要性を理解する					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9　第2版　介護過程（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	介護計画の基礎的理解	1．介護計画とは　・ケアプランと介護計画の関係性 2．介護計画に含まれる要素と留意点
	2	介護計画の基礎的理解	1．介護目標の設定 ・長期目標と短期目標、目標の優先順位　・介護内容の決定
	3	アセスメント及び介護計画のまとめ	1．事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・ICFを活用した情報収集
	4	アセスメント及び介護計画のまとめ	1．事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・情報の解釈・関連づけ・統合化（情報の分析）
	5	アセスメント及び介護計画のまとめ	1．事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・情報の解釈・関連づけ・統合化　・課題及びニーズの明確化
	6	アセスメント及び介護計画のまとめ	1．事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・介護計画の立案
	7	アセスメント及び介護計画のまとめ	1．事例を用いたアセスメント、介護計画の立案 ・介護計画の立案
	8	ケアカンファレンストの基礎的理解	1．ケアカンファレンスの意義・目的・方法
	9	ケアカンファレンストの基礎的理解	1．ケアカンファレンス ・作成した介護計画を用いたカンファレンスの実践
	10	介護の実施の基礎的理解	1．介護の実施とは 2．実施における留意点
	11	介護の実施の基礎的理解	1．実施記録の意義・目的・要素　2．情報を扱う際の留意事項 3．記録を書くときの留意事項
	12	介護の実施の基礎的理解	1．実施記録の適切な書き方について理解する
	13	介護過程の評価の基礎的理解	1．評価の意義と目的 2．評価の内容と方法
	14	介護過程の評価の基礎的理解	1．事例を用いた評価表の作成、考察
	15	まとめ	1．介護過程プロセスのまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護過程Ⅲ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・他職種との関係性や、チームとして介護過程を展開する意義・方法を理解する。 ・事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげる。 ・ケアマネジメントの全体像を理解し、ケアプランと介護計画の関係性を正しく理解することができる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する。 ・事例を用い、アセスメントや介護計画立案、チームアプローチ等に必要な視点や具体的な方法を理解する。 ・実習における対象者の介護過程を通し、心身の状況に応じた支援に必要な介護過程の展開を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9　第2版　介護過程　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護過程とケアマネジメント	1. 介護過程とケアマネジメントの関係性
	2	介護過程とチームアプローチ	1. チームアプローチにおける介護福祉士の役割
	3	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	4	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	5	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	6	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	7	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	8	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	9	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	10	介護過程の展開の理解	1. 事例を基に介護過程について理解を深める
	11	介護過程の展開の理解 （介護実習Ⅱ）	1. 介護実習Ⅱ対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開
	12	介護過程の展開の理解 （介護実習Ⅱ）	1. 介護実習Ⅱ対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開
	13	介護過程の展開の理解 （介護実習Ⅱ）	1. 実習Ⅱ対象者の介護過程の振り返り
	14	介護過程の展開の理解 （介護実習Ⅱ）	1. 実習Ⅱ対象者の介護過程の振り返り
	15	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護過程Ⅲ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義:○		演習:		実習:	実技:
単位数	4単位	総時間数	60時間	週時間数	4時間	
学習到達目標	・他職種との関係性や、チームとして介護過程を展開する意義・方法を理解する。 ・事例を通して、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげる。 ・ケアマネジメントの全体像を理解し、ケアプランと介護計画の関係性を正しく理解することができる。 ・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解する。 ・事例を用い、アセスメントや介護計画立案、チームアプローチ等に必要な視点や具体的な方法を理解する。 ・実習における対象者の介護過程を通し、心身の状況に応じた支援に必要な介護過程の展開を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A, ・79～70点…B, ・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9　第2版　介護過程　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	16	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	17	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	18	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	19	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	20	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	21	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	22	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	23	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	24	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	25	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	26	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	27	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	28	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	29	介護過程の展開の理解	1. 実習Ⅱ対象者の事例研究
	30	まとめ	1. 前期まとめ
	31		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護過程Ⅳ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護過程を展開できる能力を養う。 ・実習における対象者の介護過程を振り返り、心身の状況に応じた本人主体の支援について理解を深める。 ・映像教材を通し、本人の能力を活かした、本人主体の生活が継続できるための介護過程が展開できる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座9　第2版　介護過程　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	介護過程の展開の理解	1．実習Ⅱ対象者の事例研究
	2	介護過程の展開の理解	1．実習Ⅱ対象者の事例研究
	3	介護過程の展開の理解	1．実習Ⅱ対象者の事例研究
	4	介護過程の展開の理解	1．実習Ⅱ対象者の事例研究
	5	介護過程の展開の理解	1．実習Ⅱ対象者の事例研究
	6	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	7	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	8	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	9	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	10	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	11	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	12	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	13	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	14	介護過程の展開の理解	1．対象者の状態・状況に応じた介護過程の展開 ・「介護創造力コンテスト」の事例を用いた介護過程
	15	まとめ	1．後期及び2年間のまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護総合演習Ⅰ				指導担当者名	大久保　悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護実習に向けての準備や心構え、実習施設について理解し、他科目での学びと介護実習との関連性が理解できる。 ・「実習Ⅰ」と[実習Ⅱ」の枠組みについて理解する。 ・実習の目的や意義について理解する。 ・実習先・施設の体系、種類について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10　第2版　介護総合演習・介護実習　（中央法規） 福祉の職場のマナーガイドブック（全国社会福祉協議会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的	1．介護福祉士養成教育の全体像　2.「介護総合演習」と「介護実習指導」 3．介護総合演習の五つの目的を理解する
	2	介護実習の意義と目的 介護実習の種類	1．介護実習の必要性と流れ　2．実習Ⅰ、実習Ⅱの目的と主な内容 3．実習Ⅰの場の利用者を取り巻く人や地域社会との関係を理解する
	3	介護実習前の学習の内容と方法	1．介護実習前の学習の意義と目的 2．介護実習と各領域の学習との関係
	4	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．通所介護のサービス内容や利用者像の理解 2．通所介護の利用者像の理解（身体状況、ADLなど）
	5	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．制度から通所介護について理解する（介護保険法、厚生労働省令）
	6	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．他科目での学びを踏まえた実習目標の設定
	7	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．実習生としてのマナー　・個人情報の取り扱い　・身だしなみ、あいさつ、言葉遣い、電話のかけ方
	8	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．実習記録や日誌のまとめ方　・他科目で学んだ専門用語の確認、適切な文書表現　・ロールプレイを通して実習に必要な記録の書き方を学ぶ
	9	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．実習Ⅰ－①実習指導者による実習前オリエンテーション
	10	実習Ⅰ－①に関する基礎知識	1．実習計画の作成
	11	実習Ⅰ－①直前の学習	1．実習目標、実習計画の確認　2．実習記録の配布 3．実習記録作成の留意点
	12	実習Ⅰ－①事後学習	1．お礼状作成 2．実習後の振り返り
	13	実習Ⅰ－①事後学習	1．実習報告会に向けた準備
	14	実習Ⅰ－①事後学習	1．実習報告会に向けた準備
	15	実習Ⅰ－①まとめ	1．実習報告会を通じた学びの共有
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護総合演習Ⅱ				指導担当者名	大久保　悦美
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・利用者の状況や施設種別に応じた介護実習に取り組み、介護を学ぶ学生として求められる態度を身につける。 ・事前学習の意義と目的を理解する。 ・実習を通して利用者の生活を観察することが出来る。 ・実習において対人関係を意識したコミュニケーションをとることが出来る。 ・実習終了後のまとめ学習について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10　第2版　介護総合演習・介護実習　（中央法規） 福祉の職場のマナーガイドブック（全国社会福祉協議会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1．施設サービスの理解と援助の視点
	2	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1．介護福祉士に必要な介護過程の視点について学ぶ
	3	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1．介護福祉士に必要なコミュニケーション技術について確認する ・プロセスレコード演習
	4	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1．実習記録や日誌のまとめ方 ・介護福祉士に必要な記録について学ぶ
	5	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1．実習記録や日誌のまとめ方 ・ロールプレイを通して記録の書き方を学ぶ
	6	実習Ⅰ－②に関する基礎知識	1．実習計画の作成
	7	実習Ⅰ－②直前の学習	1．実習目標、実習計画の確認　2．実習課題の確認 3．実習記録の配布及び作成の留意点
	8	実習Ⅰ－②事後学習	1．実習後の記録、課題の提出等確認　2．お礼状の作成 3．実習の振り返り
	9	実習Ⅰ－②事後学習	1．プロセスレコードから、コミュニケーション場面を振り返る 2．相手の気持ちに寄り添ったコミュニケーションを考える
	10	実習Ⅰ－②事後学習	1．実習報告会の準備
	11	実習Ⅰ－②まとめ	1．実習報告会を通じた学びの共有
	12	実習Ⅰ－②まとめ	1．実習報告会を通じた学びの共有
	13	実習Ⅰ－③に関する基礎知識	1．訪問介護サービスの理解　2．実習目標の検討 3．実習書類の作成
	14	実習Ⅰ－③に関する基礎知識	1．訪問時のマナー ・入室、退室の仕方、掃除の仕方　・お茶の入れ方
	15	まとめ	1．後期及び1年次のまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護総合演習Ⅲ				指導担当者名	大久保　悦美・三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護実習において、利用者の自立支援や人としての尊厳を支える介護過程の展開が適切にできる。 ・介護実習Ⅱのねらい・目的を理解し、授業で学んだ知識と技術を統合した実習ができる。 ・担当ケースのアセスメントから利用者のニーズ（生活課題）を明らかにし、介護計画の立案・実施・評価ができる。 ・事例研究を意識した実習の進め方の理解、考察を行い、事例研究をまとめることができる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10　第2版　介護総合演習・介護実習（中央法規） 福祉の職場のマナーガイドブック（全国社会福祉協議会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 実習Ⅱのねらいを理解する 2. 実習Ⅱのモデルを具体的にイメージし、理解を深める　3. 実習Ⅱ目標の検討
	2	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 介護過程の展開に必要な知識・技術を確認する
	3	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 実習計画の作成
	4	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 演習を通して、担当する対象者を想定した介護過程を展開する
	5	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 演習を通して、担当する対象者を想定した介護過程を展開する
	6	実習Ⅱに関する基礎知識	1. 実習目標、実習計画の確認　2. 実習課題の確認 3. 実習記録の配布、留意点の確認
	7	実習Ⅱ　実習中の学習	1. 実習の取り組み、介護過程について確認する
	8	実習Ⅱ　実習中の学習	1. 実習の取り組み、介護過程について確認する
	9	実習Ⅱ事後学習	1. 実習後の記録、課題の提出等確認　2. お礼状の作成 3. 実習の振り返り
	10	実習Ⅱ事後学習	1. 実習課題（介護過程）の振り返り
	11	介護実践の科学的探究	1. 事例研究□ ・事例研究とは　・事例研究の進め方
	12	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る
	13	介護実践の科学的探究	1. 事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る
	14	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1. 地域密着型サービスの理解 2. 実習Ⅰ－④目標の検討
	15	まとめ	1. 前期実習のまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護総合演習Ⅳ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護実習を振り返り、知識や技術を実践と結びつけ統合することにより、自己の課題を明確にできる。 ・介護実習の様々な場面に対応できる能力を養うことで、専門職としての態度を身につける。 ・多様な介護現場で活躍できる介護福祉士として、必要なマナー、知識、理論等を統合、応用し実習に取り組む。 ・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義と方法を理解する。 ・介護実習の振り返りを通して自身の介護観を形成し、専門職として技術・知識を高める必要性を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座10　第2版　介護総合演習・介護実習（中央法規） 福祉の職場のマナーガイドブック（全国社会福祉協議会）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1．実習Ⅰ－④目標再確認　2．実習記録や日誌のまとめ方 ※記録の添削を通して記録の書き方について確認する
	2	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1．実習計画の作成
	3	介護実践の科学的探究	1．事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る
	4	介護実践の科学的探究	1．事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る
	5	介護実践の科学的探究	1．事例研究を通して実習Ⅱの支援を振り返る
	6	介護実践の科学的探究	1．校内事例研究発表会
	7	介護実践の科学的探究	1．校内事例研究発表会
	8	介護実習Ⅰ－④に関する基礎的学習	1．実習目標、実習計画の確認　2．実習課題の確認 3．実習記録の配布、留意点の確認
	9	実習Ⅰ－④事後学習	実習Ⅰ－④を振り返り、地域における施設の役割を理解する
	10	実習Ⅰ－④事後学習	実習Ⅰ－④を振り返り、地域における施設の役割を理解する
	11	実習Ⅰ－④事後学習	実習Ⅰ－④を振り返り、地域における施設の役割を理解する
	12	総合的な演習の展開	1．事例を用いた総合的な演習の展開
	13	総合的な演習の展開	1．事例を用いた総合的な演習の展開
	14	総合的な演習の展開	1．事例を用いた総合的な演習の展開
	15	まとめ	1．後期及び2年間のまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	介護実習Ⅰ－①				指導担当者名	外部実習指導者＋内部教員	
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事					介護実務経験：	有
開講時期	前期			対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：		実習：〇		実技：
単位数	Ⅰ－①②③ 合わせて3単位	総時間数	24時間	週時間数	24時間		
学習到達目標	利用者とのかかわりを通してコミュニケーションの基礎を学び、介護を必要とする方を知る。 1. 介護を必要とする方について知る。 2. 介護を必要とする方の様々な生活環境を学ぶ。 3. 介護福祉士や他職種の役割を知る。						
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況を総合し、実習指導者による評価7割、実習担当教員による評価3割の100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格） ※評価は、介護実習Ⅰ－①、Ⅰ－②、Ⅰ－③の3科目を合わせて行う。						
使用教材							
授業外学習の方法	実習指導者の指示に従い、しっかり課題を提出すること。						

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期		オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。 2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。
	1		
		利用者とのかかわり	1. 様々な利用者とかかわり、コミュニケーションの基礎を学ぶ。 2. 利用者とのかかわりを振り返ることで、自己理解を深める。
	5	介護福祉士の基本的な生活支援の見学	1. 実習施設での基本的な生活支援を見学し学ぶ。 2. 介護福祉士と他職種の仕事についてイメージできる。
		介護を学ぶ者としての態度・マナー	1. 実習をさせていただく者としての、みだしなみ・言葉づかいができる。 2. 実習指導者や職員の指導や助言を聴く施設を身につける。 3. メモの取り方や記録の方法を学ぶ。
	24		

履修上の留意点

・5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	介護実習Ⅰ－②				指導担当者名	外部実習指導者＋内部教員
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：		実習：〇	実技：
単位数	Ⅰ－①②③ 合わせて3単位	総時間数	96時間	週時間数	32時間	
学習到達目標	利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活について考える。 1. 生活の場について学ぶ。 2. 個々の生活や個別性について学ぶ。 3. その人らしさを理解するためのアセスメントの視点について学ぶ。 4. 生活支援に必要な介護技術や多職種連携を学ぶ。					
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況を総合し、実習指導者による評価7割、実習担当教員による評価3割の100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格） ※評価は、介護実習Ⅰ－①、Ⅰ－②、Ⅰ－③の3科目を合わせて行う。					
使用教材						
授業外学習の方法	実習指導者の指示に従い、しっかり課題を提出すること。					

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画 後期		オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。
			2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。
	1		3. 施設内および関連部署の見学を行う。
			4. 実習目標の確認および、毎日の目標設定の提示と確認
			5. 実習記録の取り扱い・提出方法について
		利用者とのかかわり	1. 実習中様々な利用者とかかわり、実際にコミュニケーションを図る。
	5		2. 利用者とのかかわりの場面をプロセスレコードにとり自己分析する。
		多職種協働・連携	1. 施設における多職種連携やチームケアを学ぶ。
		基本的な生活支援を体験する	1. 施設での基本的な生活支援を見学する。
	96		2. 指導者の指導のもと実際に日常生活支援技術を体験し学ぶ。

履修上の留意点

・5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	介護実習Ⅰ－③				指導担当者名	外部実習指導者＋内部教員
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：		演習：		実習：〇	実技：
単位数	Ⅰ－①②③ 合わせて3単位	総時間数	24時間	週時間数	24時間	
学習到達目標	在宅での生活支援を理解し、地域で生活を支える介護福祉士の役割を考える。 1. 訪問介護にて、介護を必要とする方の生活環境や地域とのつながりを理解する。 2. 利用者や家族とのかかわりから、生活支援について理解する。 3. 居宅サービスにおける介護職の役割や多職種連携について理解する。 4. 介護職としてのマナーを身につける。					
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況を総合し、実習指導者による評価7割、実習担当教員による評価3割の100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格） ※評価は、介護実習Ⅰ－①、Ⅰ－②、Ⅰ－③の3科目を合わせて行う。					
使用教材						
授業外学習の方法	実習指導者の指示に従い、しっかり課題を提出すること。					

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画期		オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。
			2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。
	1		3. 施設内および関連部署の見学を行う。
		利用者とのかかわり	1. 利用者やその家族とかかわり、コミュニケーション技術を深める。
			2. 利用者とのかかわりを通して、対象理解・アセスメント能力を深める。
	5	地域における生活支援	1. 訪問介護の生活支援を体験し、地域で自立した生活を送るための支援を理解する。
		多職種協働・連携	1. 訪問介護における介護福祉士の役割や多職種連携を学ぶ。
		介護福祉士倫理・態度を理解する	1. 介護福祉士としてのみだしなみ・言葉づかい・態度を身につける。
	24		2. 介護福祉士として多職種協働の意味を理解し行動できる。
			3. 記録の重要性・目的を理解し、状況に応じた内容・結果を記録できる。

履修上の留意点

・5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	介護実習Ⅰ－④				指導担当者名	外部実習指導者＋内部教員
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義:		演習:		実習:〇	実技:
単位数	2単位	総時間数	96時間	週時間数	32時間	

学習到達目標	地域での生活を支える施設・事業所の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶ 1. 地域密着型サービスについて理解する。 2. 地域密着型サービスを利用する利用者の生活と地域との関わりを理解する。 3. 地域拠点としての施設・事業所の役割を理解する。
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況を総合し、実習指導者による評価7割、実習担当教員による評価3割の100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）
使用教材	
授業外学習の方法	実習指導者の指示に従い、しっかり課題を提出すること。

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期		オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。 2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。 3. 施設内および関連部署の見学を行う。 4. 実習目標の確認および、毎日の目標設定が自らできる。 5. 実習記録の取り扱い・提出方法について自ら確認し、実践できる。
	1		
		地域における生活支援の実践	1. 本人や家族とのコミュニケーションにより、 地域密着型サービスを利用する利用者の生活を学ぶ。 2. 地域での生活を継続するために必要な生活支援を実践し学ぶ。
	5	申し送り・ミーティング等の参加	1. 申し送りやミーティング等に参加し、 施設や利用者の状況に応じた行動が取れる。 2. 地域密着型サービスにおける多職種連携、チームアプローチを理解する。
		日常生活支援技術	1. 指導者の指導のもと、地域での生活を継続するために必要な 利用者一人ひとりに応じた生活支援を理解する。 2. 介護の実践を通して、安全で自立に向けた介護が実践できる。
	96		

履修上の留意点

・5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	介護実習Ⅱ				指導担当者名	外部実習指導者＋内部教員
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：		実習：〇	実技：
単位数	4単位	総時間数	216時間	週時間数	40時間	
学習到達目標	1. 利用者とのかかわりを通して、その人らしい生活の実現に向けた生活支援について理解する。 2. 本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。 3. その人らしい生活を尊重した介護過程の展開により、介護を必要とする方のニーズを探求できる。 4. 一人ひとりの介護目標・支援内容を理解し、安全性、快適さ、自立（自律）に配慮した根拠のある生活支援技術を実践できる。 5. 多職種との協働の中で、施設における各専門職の専門性について理解し、介護福祉士としての自身の役割について理解を深める。 6チームマネジメントに必要なリーダーの機能や役割を学ぶ					
評価方法 評価基準	出席状況、実習態度、提出物状況を総合し、実習指導者による評価7割、実習担当教員による評価3割の100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材						
授業外学習の方法	実習指導者の指示に従い、しっかり課題を提出すること。					

学期	時間	項 目	内容・準備資料等
授業計画 前期		オリエンテーション	1. 施設の組織・事業・業務の概略について学ぶ。
			2. 日課・週間・年間スケジュール・行事予定等について学ぶ。
	1		3. 施設内および関連部署の見学を行う。
			4. 実習目標の確認および、毎日の目標設定の提示と確認できる。
			5. 実習記録の取り扱い・提出方法について、自ら管理できる。
		介護過程の実践的展開	1. 介護過程を通して対象者の全体像を理解する。
			2. 本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶ。
	5	申し送り・ミーティング等の参加	1. 申し送りやミーティング等の参加を通して、チームケアについて学ぶ。
			2. 施設の運営や組織について理解を深める。
		多職種協働の実践	1. サービス担当者会議やケースカンファレンス等の参加を通して、 多職種間の連携、情報の共有化について学ぶ。
		変則時間帯の実習	1. 実習期間中に早番・遅番の実習を行う。
			2. 実習期間中に夜勤実習を行う。
	216		3. 施設内および関連部署の見学を行う。
		レクリエーションの計画・実施・評価	1. 指導者の指導のもと、利用者の生活を豊かにする レクリエーションの計画・実施・評価を行う。
		日常生活支援技術	1. 指導者の指導のもと、利用者一人ひとりに応じた生活支援を理解する
			2. 介護の実践を通して、自立に向けた根拠のある介護について理解する。

履修上の留意点

・5分の4以上の出席がない者には、単位を認定しない。
・コロナウイルス感染症の影響で外部実習の実施が難しい場合、学内実習にて振替える。

授業計画（シラバス）

科目名	発達と老化の理解Ⅰ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・老化に伴う身体的、心理的、社会的な変化、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、 健康の維持・増進を含めたライフサイクルに応じた生活を支援するための基礎的な内容の理解を深める。 ・ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴について基礎的な理解ができる。 ・人間の成長と発達を理解するために、発達段階や発達課題などについて学ぶ。 ・発達段階別の特徴的な疾病や障害が理解できる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12　第2版　発達と老化の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	人間の成長と発達の基礎的知識	成長・発達の考え方
	2	人間の発達段階と発達課題－Ⅰ	発達理論
	3	人間の発達段階と発達課題－Ⅱ	身体的機能の成長と発達
	4	人間の発達段階と発達課題－Ⅲ	心理的機能の発達
	5	人間の発達段階と発達課題－Ⅳ	社会的機能の発達
	6	老年期の特徴と発達課題－Ⅰ	老年期の定義
	7	老年期の特徴と発達課題－Ⅱ	老年期の発達課題
	8	老化にともなうこころとからだの変化と生活－Ⅰ	加齢による生理機能の全体的変化
	9	老化にともなうこころとからだの変化と生活－Ⅱ	感覚器系の機能の変化と生活への影響
	10	老化にともなうこころとからだの変化と生活－Ⅲ	消化器系の機能の変化と生活への影響
	11	老化にともなうこころとからだの変化と生活－Ⅳ	認知機能の変化
	12	老化にともなうこころとからだの変化と生活－Ⅴ	パーソナリティ（性格）の変化
	13	老化にともなうこころとからだの変化と生活－Ⅵ	老化にともなう社会的な変化と生活への影響
	14	高齢者と健康Ⅰ	健康長寿に向けての健康
	15	高齢者と健康Ⅱ	高齢者の症状・疾患の特徴
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	発達と老化の理解Ⅱ				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・認知症や障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響を理解する。 ・本人や家族が地域で自立した生活を継続するために必要な支援について理解する。 ・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化と日常生活に及ぼす影響について理解する。 ・高齢者に多い疾病や老化にともなう機能低下による日常生活に及ぼす影響について理解する。 ・高齢者の健康増進・維持を含めた生活支援について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座12　第2版　発達と老化の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅰ	骨格系・筋系（骨粗鬆症、骨折、変形性膝関節症、関節リウマチ、サルコペニア等）
	2	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅱ	脳・神経系（パーキンソン病、脳血管疾患）
	3	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅲ	皮膚・感覚器系（白内障、緑内障、難聴、皮膚疾患等）
	4	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅳ	循環器系（高血圧、虚血性心疾患、不整脈、心不全、閉塞性動脈硬化症）
	5	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅴ	呼吸器系（慢性閉塞性肺疾患、肺炎、結核、喘息）
	6	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅵ	消化器系（消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変）
	7	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅶ	腎・泌尿器系（前立腺疾患、慢性腎臓病、尿路感染症）
	8	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅷ	内分泌・代謝系（糖尿病、脂質異常症、痛風）
	9	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅸ	歯・口腔疾患（虫歯、歯周病、ドライマウス）
	10	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅹ	悪性新生物（胃がん、肺がん、大腸がん）
	11	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅺ	感染症（ウイルス性呼吸感染症、感染性胃腸炎）
	12	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点Ⅻ	精神疾患（うつ病、統合失調症など）
	13	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点XIII	熱中症、脱水、貧血
	14	保健医療職との連携	多職種との連携
	15	まとめ	1．授業の振り返りとまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	認知症の理解Ⅰ				指導担当者名	橋本　好博
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	認知症に関する基礎的知識を学ぶとともに、認知症の特性を理解し介護の視点を学ぶ。共に暮らす家族への支援と社会制度や地域福祉について理解する。 1. 四大認知症高齢者の特徴的な原因疾患と症状を理解し、ケアの方向性について説明できる。 2. 認知機能障害と行動・心理症状（BPSD)について説明できる。 3. 薬物療法と非薬物療法について理解できる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座13　第2版　認知症の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画期	1	認知症の基礎的理解Ⅰ	1. 認知症とは何か（認知症の定義、診断基準、特徴）
	2	認知症の基礎的理解Ⅱ	1. 脳のしくみ（脳の構造・機能、認知症の病理）
	3	認知症の基礎的理解Ⅲ	1. 認知症の人の心理（不安や喪失感、病識の低下）
	4	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅰ	1. 中核症状の理解①（記憶障害、見当識障害、遂行機能障害など）
	5	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅱ	1. 中核症状の理解②（失語・失行・失認など）
	6	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅲ	1. 生活障害の理解（ADL障害とIADL障害、社会参加）
	7	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅳ	1. BPSDの理解①（BPSDの定義・要因・誘因）
	8	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅴ	1. BPSDの理解②（主要なBPSD～徘徊、不穏、拒否、暴言など）
	9	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅵ	1. 認知症の診断と重症度（認知症の評価尺度）
	10	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅶ	1. 認知症の原因疾患と症状・生活障害①（アルツハイマー型、血管性認知症など）
	11	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅷ	1. 認知症の原因疾患と症状・生活障害②（若年性認知症、治療可能な認知症）
	12	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅸ	1. 認知症の治療薬（観察や対応時の注意点）
	13	認知症の症状・診断・治療・予防Ⅹ	1. 認知症の予防（予防の考え方、リスクを高める要因と下げる要因）
	14	障害をかかえて生きることへの支援Ⅰ	1. 認知症を取り巻く状況（認知症ケアの歴史）
	15	障害をかかえて生きることへの支援Ⅱ	1. 認知症ケアの理念と視点（認知症ケアの現状と倫理について）
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	認知症の理解Ⅱ				指導担当者名	橋本　好博
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	認知症の特性を理解し、実際の現場で活用できるように意味や実施の際の留意点を学習し体験的に学ぶ。 1. 認知症高齢者の特徴的な心理、行動に合わせた対応法、アプローチの方法を学ぶ。 2. 家族の介護負担を理解し、終末期における医療・福祉における多職種連携の必要性、重要性を学ぶ。 3. 本人や家族が地域で安全・安心な生活を継続するための制度・関係機関との連携方法を知る。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座13　第2版　認知症の理解（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	障害をかかえて生きることへの支援Ⅲ	1. 認知症当事者の視点からみえるもの （認知症による体験が生活に及ぼす影響、思いを尊重したサポート方法）
	2	障害をかかえて生きることへの支援Ⅳ	1. 認知症の人の体験を事例を基に考える
	3	認知所ケアの実際Ⅰ	1. パーソン・センタード・ケア（聞く・集める・見つけるの3つのステップ）
	4	認知所ケアの実際Ⅱ	1. 認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール （ひもときシートの活用）
	5	認知所ケアの実際Ⅲ	1. 認知症の人とのコミュニケーション （認知症の人の特性に配慮したコミュニケーションの留意点）
	6	認知所ケアの実際Ⅳ	1. 認知症の人へのケア①（食事・排泄・入浴などのケア）
	7	認知所ケアの実際Ⅴ	1. 認知症の人へのケア②（BPSDのケア）
	8	認知所ケアの実際Ⅵ	1. 認知症の人へのさまざまなアプローチ （ユマニチュード、バリデーション、回想法など）
	9	認知所ケアの実際Ⅶ	1. 認知症の人の終末期医療と介護（終末期の特徴、課題と支援）
	10	認知所ケアの実際Ⅷ	1. 環境づくり（環境が与える影響、環境づくりのポイント）
	11	介護者支援Ⅰ	1. 家族への支援（家族の心理過程と葛藤、レスパイトケア）
	12	介護者支援Ⅱ	1. 介護福祉職への支援（働きやすい職場環境の整備） （OJTとOff-JT、介護福祉職のキャリアパス制度）
	13	認知症の人の地域生活支援Ⅰ	1. 制度、サービス、機関、地域づくり、他職種連携と協働 （オレンジプランの推移、認知症サポーター、認知症カフェなど）
	14	認知症の人の地域生活支援Ⅱ	1. 多職種連携と協働 （認知症ケアに携わる多職種、認知症ライフサポートモデル）
	15	まとめ	1. 授業の振り返りとまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	障がいの特性				指導担当者名	岡本　宏二
実務経験	作業療法士				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響、障害に関しての医学的・心理的側面を理解する。 1. 障がいに関しての基本的理解ができる。 2. 障がいの医学的・心理的側面の基本的理解ができる。 3. 本人、家族や周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座14　第2版　障害の理解　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	障害の概念と障害者福祉の基本理念①	障害のとらえ方　　ICIDHからICFへの変遷　　障害者の定義
	2	障害の概念と障害者福祉の基本理念②	障害者福祉の基本理念 （ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）
	3	障害の概念と障害者福祉の基本理念③	障害者福祉に関する制度 （障害者総合支援法、障害者差別解消法、障害者虐待防止法）
	4	障害の概念と障害者福祉の基本理念④	障害者福祉制度と介護保険制度 （障害者福祉サービスと介護保険サービス）
	5	連携と共同①	地域のサポート体制 （社会資源、障害福祉サービスのしくみ、相談支援事業等との連携）
	6	連携と共同②	チームアプローチ （チームづくりの方法、コンフリクト、保健医療関係職種の業務）
	7	障害のある人の心理	人間の欲求、適応機制、障害受容
	8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援①	重症心身障害 （重症心身障害とは、障害の原因と分類、障害の特性と応じた支援）
	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援②	知的障害 （知的障害とは、障害の原因、障害に応じた支援、ライフステージに応じた関わり方）
	10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援③	精神障害 （精神障害とは、障害の種類、障害の特性と応じた支援）
	11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援④	高次脳機能障害 （高次脳機能障害とは、障害の原因、障害の特性と応じた支援）
	12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑤	発達障害 （発達障害とは、障害ごとの特性と生活支援、保護者への支援、支援機関）
	13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑥	難病 （難病とは、おもな難病、難病の特性と応じた支援）
	14	家族への支援①	家族への支援とは （障害のある人の家族への支援、障害の受容、家族の人生計画の変更）
	15	家族への支援②	家族の介護力の評価と介護負担の軽減 （家族の介護力の評価、家族の介護力をふまえた支援）
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	障がいに応じた支援				指導担当者名	岡本　宏二
実務経験	作業療法士				介護実務経験：	無
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：		演習：〇		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	障害のある人の地域での生活を理解し、本人にみならず、家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基本的な知識を習得する。 1. 障害の状況による生活上の困難と制約を理解する。 2. 障害をもつ利用者の地域での生活を支援する方法と留意点を理解する。 3. 多職種との連携と協働、チームアプローチのあり方、地域のサポート体制について理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座14　第2版　障害の理解　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援①	肢体不自由[運動機能障害] （身体的特性の理解、原因疾患、心理的・生活的側面の理解）
	2	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援②	肢体不自由[運動機能障害 （運動機能障害に応じた生活支援：外出支援等）
	3	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援③	肢体不自由[運動機能障害 （運動機能障害に応じた生活支援：外出支援等）
	4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援④	障害者をとりまく環境（ユニバーサルデザイン、バリアフリー）について 調理体験等を通して理解する
	5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑤	障害者をとりまく環境（ユニバーサルデザイン、バリアフリー）について 調理体験等を通して理解する
	6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑥	視覚障害 （視覚障害の種類、障害の原因、障害の特性）
	7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑦	視覚障害 視覚障害に応じた生活の支援（ガイドヘルプ）
	8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑧	聴覚障害（聴覚の程度による分類、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援） 言語障害（言語障害の分類、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援）
	9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑨	重複障害 （障害の原因、障害の種類、重複障害児への支援）
	10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑩ ～内部障害～	心臓機能障害 （心臓機能障害とは、障害の原因、障害の特性、障害に応じた支援）
	11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑪ ～内部障害～	呼吸器障害 （呼吸器障害とは、障害の原因と症状、治療の方法、障害の特性と支援方法）
	12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑫ ～内部障害～	腎臓機能障害 （腎臓機能障害とは、障害の原因と症状、治療の方法、障害の特性と支援方法）
	13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑬ ～内部障害～	膀胱・直腸・小腸機能障害 （障害の症状と原因、治療と管理、障害の特性と支援方法）
	14	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援⑭ ～内部障害～	ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝臓機能障害（障害の症状と原因、治療の方法、障害の特性に応じた支援、感染対策）重症心身障害（重症心身障害とは、障害の原因と分類、障害の特性と応じた支援）
	15	まとめ	まとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	こころとからだ				指導担当者名	清水　一浩
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				介護実務経験：	無
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を学ぶ。 1. 脳とこころの関係について理解する。 2. からだの解剖学的構造を理解する。 3. 老化や疾病が体に及ぼす影響について理解するとともに、介護実践との関連を学ぶ。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座11　第2版　こころとからだのしくみ　（中央法規） ぜんぶわかる人体解剖図　（成美堂出版）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	健康の概念	1. オリエンテーション　2. 健康の定義 3. 心身の調和（欲求・適応）
	2	生命の維持	1. 生命の維持と恒常性（ホメオスタシス） 2. 自律神経の働き　3. バイタルサイン
	3	こころのしくみの基礎（こころ、脳）	1.「こころ」とは何か　2. 脳・認知のしくみ 3. 学習・記憶・思考のしくみ
	4	こころのしくみの基礎（感情・意欲）	1. 感情・情動のしくみ　2. 意欲・動機づけのしくみ 3. 適応のしくみ
	5	からだのしくみの理解（身体・内臓）	1. からだのつくりの理解（身体各部の名称）　2. 内臓の名称 3. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	6	からだのしくみの理解（骨・筋肉）	1. 骨格・骨格筋の名称　2. 骨・筋肉のはたらき 3. サルコペニアによる影響と予防
	7	からだのしくみの理解（細胞・遺伝とは）	1. 細胞の機能　2. 遺伝とは 3. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	8	からだのしくみの理解（脳・神経）	1. 中枢神経系・末梢神経系　2. 神経系のはたらき 3. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	9	からだのしくみの理解（感覚器）	1. 視覚器・平衡聴覚器　2. 嗅覚器・味覚器・皮膚 3. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	10	からだのしくみの理解（呼吸器）	1. 呼吸器の構造　2. 外呼吸・内呼吸 3. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	11	からだのしくみの理解（循環器）	1. 心臓・血管系・リンパ系 2. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	12	からだのしくみの理解（消化器・泌尿器）	1. 消化器・泌尿器の構造とはたらき　2. 排尿・排便のしくみ 3. 加齢に伴う機能の変化と生活への影響
	13	からだのしくみの理解 （生殖器・内分泌・血液）	1. 生殖器の構造とはたらき　2. ホルモンの名称とはたらき 3. 血液・体液・リンパ液
	14	生命を維持するしくみ	1. 生命の維持と恒常性のしくみ　2. 自律神経系・内分泌系・免疫系 3. 生命を維持する徴候の観察　4. 介護福祉職に必要な薬の知識
	15	まとめ	1. 授業の振り返りとまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	こころとからだのしくみの理解Ⅰ				指導担当者名	千葉　智子
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				看護実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 ・移動・身じたく・食事に関連するこころとからだのしくみが理解できる。 ・心身の機能低下がおよぼす身じたく、移動、食事への影響を学び、介護実践に役立てる。 ・日常生活におけるこころとからだの変化と、観察のポイントを習得する。□					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座11　第2版　こころとからだのしくみ　（中央法規） ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．オリエンテーション　2．移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 3．基本的な姿勢
	2	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 2．ボディメカニクス
	3	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 2．移動に関連したこころのしくみ　3．移動に関連したからだのしくみ
	4	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．移動に関連したこころとからだの基礎知識□ 2．移動に関連したからだのしくみ
	5	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．心身の機能の低下が移動に及ぼす影響　2．精神機能の低下が移動に及ぼす影響 3．身体機能の低下が移動に及ぼす影響（骨折、ロコモティブシンドローム等）
	6	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．心身の機能の低下が移動に及ぼす影響　2．身体機能の低下が移動に及ぼす影響（廃用症候群等）　3．疾患にともなう機能低下
	7	移動に関連したこころとからだのしくみ	1．移動に関連したこころとからだのしくみ 2．生活場面における変化の気づきと対応
	8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1．身じたくに関連したこころとからだの基礎知識　2．身じたくのしくみとこころのしくみと精神機能の低下が身じたくに及ぼす影響　3．メイク等の身じたくがこころに及ぼす影響
	9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1．身じたくに関連したこころとからだの基礎知識 2．身じたくに関連したからだのしくみ（表情筋と咀嚼筋）
	10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1．身じたくに関連したからだのしくみ（目・耳・鼻の構造と機能）　2．身体機能が身じたくの及ぼす影響　3．生活場面における変化の気づきと対応（目・耳・鼻の変化）
	11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ	1．身じたくに関連したからだのしくみ（爪・毛髪・口腔の構造と機能）　2．身体機能（爪・毛髪・口腔）の老化による変化　3．変化の気づきと対応（爪・毛髪・口腔の老化による変化）
	12	食事に関連したこころとからだのしくみ	1．食事に関連したこころとからだの基礎知識　2．なぜ食事をするのか（栄養と水分等） 3．食事に関連したこころのしくみと精神機能の低下が食事の及ぼす影響
	13	食事に関連したこころとからだのしくみ	1．食事に関連したからだのしくみ（口腔から食道までのしくみ、摂食と嚥下運動） 2．身体機能の低下が食事に及ぼす影響（加齢による機能低下・病気による機能低下）
	14	食事に関連したこころとからだのしくみ	1．身体機能の低下が食事に及ぼす影響（加齢による機能低下・病気による機能低下） 2．治療食について
	15	食事に関連したこころとからだのしくみ	1．生活場面における変化の気づきと対応（食事での観察ポイント）□ 2．緊急性とともなう異常について　3．食事に関する、多職種との連携□
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	こころとからだのしくみの理解Ⅱ				指導担当者名	千葉　智子
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				看護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　1年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護実践に必要な根拠となる、心身の構造や機能について理解し、対象者の生活を支援するという観点から、身体的・心理的・社会的側面を統合的に捉えるための知識を身につける。 ・排泄・入浴・睡眠に関連するこころとからだのしくみが理解できる。□ ・心身の低下がおよぼす排泄・入浴・睡眠への影響を学び、介護実践に役立てる。 ・日常生活におけるこころとからだの変化と、観察のポイントを習得する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座１１　第2版　こころとからだのしくみ　（中央法規） ぜんぶわかる人体解剖図　成美堂出版					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1．入浴・清潔保持に関連したこころとからだの基礎知識　2．なぜ入浴・清潔保持を行うのか（入浴と作用）　3．入浴・生活保持に関連したこころのしくみ、精神機能の低下が及ぼす影響
	2	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1．排泄に関連したからだのしくみ（皮膚・発汗のしくみと汚れのしくみ） 2．陰部の清潔
	3	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1．身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2．運動機能の低下と影響
	4	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1．身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 2．膀胱留置カテーテルの管理と入浴方法　3．ストーマの管理と入浴方法
	5	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1．生活場面における変化の気づきと対応　2．皮膚の状態観察、循環器、呼吸器観察のポイント　3．入浴、生活保持に必要な観察のポイント
	6	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ	1．生活場面における変化の気づきと対応（全身状態の観察等） 2．入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント
	7	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1．排泄に関連したこころとからだの基礎知識　2．なぜ排泄をするのか（正常な排泄行為）　3．排泄に関連したこころのしくみ
	8	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1．排泄に関連したからだのしくみ（尿・便排出のしくみ） 2．人工膀胱・人工肛門のしくみ
	9	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1．心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 2．精神・判断力の低下が排泄に及ぼす影響（認知症・ストレス等）
	10	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1．心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 2．機能性尿失禁と膀胱尿道機能の低下による排泄障害
	11	排泄に関連したこころとからだのしくみ	1．排泄での観察のポイント 2．排泄状態での観察と医療職との連携
	12	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1．休息・睡眠に関連したこころとからだの基礎知識　2．なぜ睡眠をとるのか（睡眠のしくみ）　3．睡眠の質を高める環境と生活習慣
	13	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1．心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響 2．休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能の低下　3．睡眠障害
	14	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ	1．睡眠障害 2．生活場面における変化に気づくためのポイント
	15	「こころとからだのしくみ」まとめ	1．「こころとからだのしくみ」振り返り 2．まとめ□
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	ターミナルケア				指導担当者名	三本木　茜
実務経験	介護福祉施設にて介護福祉士業務に従事した経験あり				介護実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	2単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解する。 ・終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解する。 ・人生の最終段階に関する「死」のとらえ方を理解する。 ・人生の最終段階にある人の介護の視点を理解する。 ・家族・介護職が「死」を受け止める過程を理解する。 ・終末期における医療職との連携を理解する。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座7　第2版　生活支援技術Ⅱ（中央法規） 最新・介護福祉士養成講座11　第2版　こころとからだのしくみ　（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	1．死の意味と概念について考える 2．生きることの意味について考える
	2	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	1．人生の最終段階に関する「死」のとらえ方　2．生物学的・法律的・臨床的な死についてのとらえ方　3．尊厳死（ﾘﾋﾞﾝｸﾞｳｨﾙ、ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄ）
	3	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方	1．尊厳死（リビングウィル、インフォームドコンセント） 2．看取りにかかわる人の価値観（事例を通して考える）
	4	看取りにかかわる人の価値観	1．その人らしく迎える「死」 2．看取りにかかわる人の価値観（事例を通して考える）
	5	終末期（ターミナル期）	1．終末期（ターミナル期）について 2．ターミナルケアのポイント
	6	人生の最終段階の意義と介護の役割	1．人生の最終段階におけるケアの意味 2．アドバンス・ケア・プランニングについて　3．事前指示
	7	「死」に対するこころの理解	1．「死」に対するこころの変化　2．キューブラ―・ロスの死に対する五つの段階 3．家族が「死」を受容できるための支援
	8	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方におけるアセスメント	1．人生の最終段階におけるケアがめざすもの 2．全人的苦痛と痛みについて
	9	終末期から危篤状態、死後のからだの理解	1．身体機能の特徴（終末期から臨周期における身体機能の変化） 2．臨終期の対応　3．死後のからだの変化
	10	人生の最終段階における介護	1．死をむかえる人の介護　2．死が近づいたときの身体的症状への対応 3．読み聞かせを通して終末期を理解する
	11	人生の最終段階における介護	1．死をむかえる人の介護　2．死が近づいたときの身体的症状への対応 3．読み聞かせを通して終末期を理解する
	12	人生の最終段階における介護	1．死亡診断書 2．死後のからだを整える（死後のケア）
	13	人生の最終段階における介護	1．死後のからだを整える（死後のケア） 2．エンゼルメイク
	14	亡くなったあとの介護	1．遺族へのケア 2．職員へのケア（デスカンファレンス）
	15	終末期における医療職との連携	1．終末期における多職種の役割 2．在宅医療（在宅死）と多職種連携
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	医療的ケアⅠ				指導担当者名	千葉　智子
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				実務経験：	有
開講時期	前期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：〇		演習：		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切にたんの吸引・経管栄養を行うために必要な基礎を身につける。 ・医行為に関する法律、倫理、医療従事者との連携について理解する。 ・安全な療養生活の提供方法について理解する。 ・清潔保持と感染予防について理解することで、自己の健康管理や感染予防ができる。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15　第2版　医療的ケア（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　前期	1	医療的ケア	1. 医療的ケアとは　2. 医療提供体制の変遷 3. 社会福祉士及び介護福祉士法の改正
	2	人間と社会	1. 個人の尊厳と自立　2. 医療の倫理 3. 利用者や家族の気持ちの理解
	3	保健医療制度とチーム医療	1. 保健医療に関する制度 2. チーム医療と介護職員との連携
	4	安全な療養生活（1）	1. リスクマネジメント、ヒヤリハット 2. 痰の吸引における安全な実施
	5	安全な療養生活（2）	1. リスクマネジメント、ヒヤリハット 2. 経管栄養における安全な実施
	6	安全な療養生活（3）	1. 救急蘇生法
	7	安全な療養生活（4）	1. 救急蘇生法
	8	清潔保持と感染予防（1）	1. 感染予防 2. 職員の感染予防
	9	清潔保持と感染予防（2）	1. 療養環境の清潔、消毒法 2. 滅菌と消毒
	10	健康状態の把握（1）	1. 健康状態の把握 2. バイタルサイン
	11	健康状態の把握（2）	1. 身体・精神の健康 2. 急変状態について
	12	健康状態の把握（3）	1. 高齢者によくみられる身体症状の特徴 ～脱水、浮腫、痒み、痛み、発熱、嘔吐、倦怠感～
	13	医療的生活支援（1）	1. 創傷の処置とガーゼ交換　2. 服薬に関する支援 3. 清潔に関する支援（爪切り、口腔ケア、耳垢の除去）
	14	医療的生活支援（2）	1. 排泄に関する支援 ・パウチにたまった排泄物の除去　・自己導尿
	15	補足及びまとめ	授業の補足及びまとめ
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	医療的ケアⅡ				指導担当者名	千葉　智子
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	・介護福祉士が、安全で適切に痰の吸引を行うために必要な基礎を身につける。 ・医行為に関する法律・倫理・医療従事者との連携について理解する。 ・安全で適切なたんの吸引の方法・留意点について理解する。 ・安全で適切なたんの吸引の技法を身につける。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15　第2版　医療的ケア（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. 呼吸のしくみとはたらき 2. いつもと違う呼吸状態
	2	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. たんの吸引とは 2. 人工呼吸器と吸引
	3	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. こどものたんの吸引 2. 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意。
	4	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. 呼吸器の感染と予防（吸引と関連して） 2. たんの吸引により生じる危険、事後の安全確認
	5	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」概論	1. 急変・事故発生時の対応と事前対策
	6	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. たんの吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2. たんの吸引に伴うケア
	7	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. 吸引の技術と留意点
	8	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. 吸引の技術と留意点 2. 報告及び記録
	9	高齢者及び障害児・者の「たんの吸引」実施手順	1. 吸引の技術と留意点 2. 報告及び記録
	10	たんの吸引（口腔内）	1. 口腔内吸引
	11	たんの吸引（口腔内）	1. 口腔内吸引
	12	たんの吸引（鼻腔内）	1. 鼻腔内吸引
	13	たんの吸引（鼻腔内）	1. 鼻腔内吸引
	14	たんの吸引（気管カニューレ内）	1. 気管カニューレ内吸引
	15	たんの吸引（気管カニューレ内）	1. 気管カニューレ内吸引
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。

授業計画（シラバス）

科目名	医療的ケアⅢ				指導担当者名	千葉　智子
実務経験	病院にて看護師業務に従事した経験あり				実務経験：	有
開講時期	後期		対象学科学年		介護総合マネジメント学科　2年	
授業方法	講義：○		演習：		実習：	実技：
単位数	1単位	総時間数	30時間	週時間数	2時間	
学習到達目標	介護福祉士が、安全で適切に経管栄養を行うために必要な技法を身につける。 ・安全で適切な経管栄養の方法・留意点について理解する。 ・安全で適切な経管栄養の技法を身につける。					
評価方法 評価基準	学習評価は、定期試験、出席状況、提出物状況、授業態度を総合し、100点法で点数化して行う。 100点法による評点は、次の基準により4段階に換算する。 ・100～80点…A，・79～70点…B，・69～60点…C ・59～0点…D（不合格）					
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15　第2版　医療的ケア（中央法規）					
授業外学習の方法	指導担当者の指示に従い、予習と復習をしっかり行うこと。					

学期	ターム	項 目	内容・準備資料等
授業計画　後期	1	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 消化器系のしくみとはたらき
	2	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 消化・吸収とよくある消化器の症状
	3	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養法とは 2. 注入する内容に関する知識
	4	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養実施上の留意点 2. こどもの経管栄養について
	5	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養に関する感染と予防 2. 経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
	6	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論	1. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 2. 急変・事故発生時の対応と事前対策
	7	高齢者及び障害児・者の 「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 2. 経管栄養に必要なケア
	8	高齢者及び障害児・者の 「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点
	9	高齢者及び障害児・者の 「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点
	10	高齢者及び障害児・者の 「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点 2. 報告及び記録
	11	高齢者及び障害児・者の 「経管栄養」実施手順	1. 経管栄養の技術と留意点 2. 報告及び記録
	12	経管栄養（胃ろう）	1. 胃ろうの経管栄養
	13	経管栄養（胃ろう）	1. 胃ろうの経管栄養
	14	経管栄養（経鼻）	1. 経鼻経管栄養
	15	経管栄養（経鼻）	1. 経鼻経管栄養
	16		

履修上の留意点

・出席率3分の2に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。
・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施。